ISO 9001
認証取得

shindaiwa

取 扱 説 明 書

ロータリーモア

BRM220−AWD

⚠ 注 意

安全のため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
また、いつでもご覧いただけるよう、大切に保管してください。

新ダイワ工業株式会社

本書について

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本書は、本製品の正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために、詳しい情報を提供することを目的とし作成しています。本製品をご使用になる前に必ず本書を読み、理解された上で、正しい取り扱いをしてください。
また、エンジン取扱説明書もあわせてお読みください。
なお、本書ははじめて本製品を使用される方を対象として作成しています。

⚠ 警　告

・本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。

・本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。

・本書はいつでも参照できるように大切に保管してください。

本製品について

⚠ 警　告

・本製品は草刈作業車です。草刈作業以外の用途には使用しないでください。

・本製品には、潜在する危険があります。本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。

・本製品は、公道および公道とみなされる道路での運転はできません。当該道路上での運転による事故および違反につきましては、責任を負いかねます。

・本製品を改造して使用しないでください。また、安全カバー等を取り外して使用しないでください。重大な事故の原因となります。

警告用語について

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、警告用語を下記のとおり分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警　告　用　語	意　味
⚠ 危　険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
⚠ 警　告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
⚠ 注　意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う可能性のある場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
アドバイス	注意を促したい場合、使用上役立つ情報について使用されます。

リース（レンタル）業者の皆様へ

⚠ 注　意
・本製品を他の事業者または個人に貸し出す際には、取り扱い方法を明確に説明し、使用の前に本書を必ず読むよう指導してください。

保証とアフターサービスについて

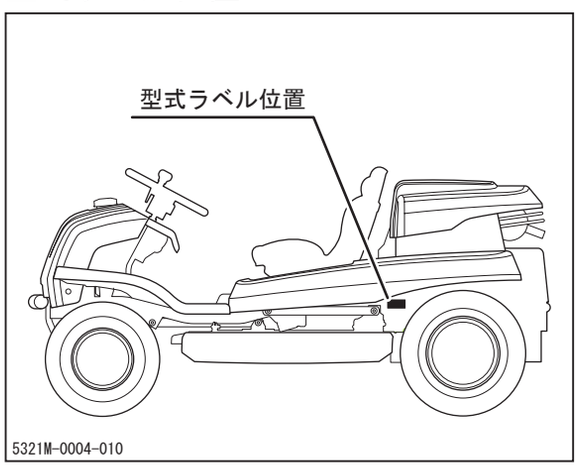
保証について

当社は本製品について、保証書の内容に基づいて保証をいたします。詳しくは本書巻末に貼付の保証書を参照してください。

アフターサービスについて

ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または当社営業所へお気軽にご相談ください。その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名を併せてご連絡ください。
搭載エンジンのメーカー名および型式名については、本書の**「本製品の仕様」**を参照してください。（☞14ページ）

型式ラベル位置



型式ラベル



補修用部品の供給年限（期間）について

本製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後10年とします。

目　　次

１．安全に関する注意事項　1

本製品に添付してある警告ラベルについて ・・・・・・・・・・・・ 1

本製品に装備されている安全装置について ・・・・・・・・・・・・ 3

安全運転・作業のための心得 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

運転前の心得 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

運転のしかた ・・・

エンジン ・・・

６．不具合発生時の処置 73

不具合診断表 ・・ 73

７．本製品の移送 77

トラックへの積み降ろし要領 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77

クレーン等による吊り上げ要領 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78

保証書

本書の巻末に添付

※本製品の取扱説明を受けた後に、受領証と共にお受け取りください。

付録

・エンジン取扱説明書

・バッテリ取扱説明書

※本書とあわせて必ずお読みください。

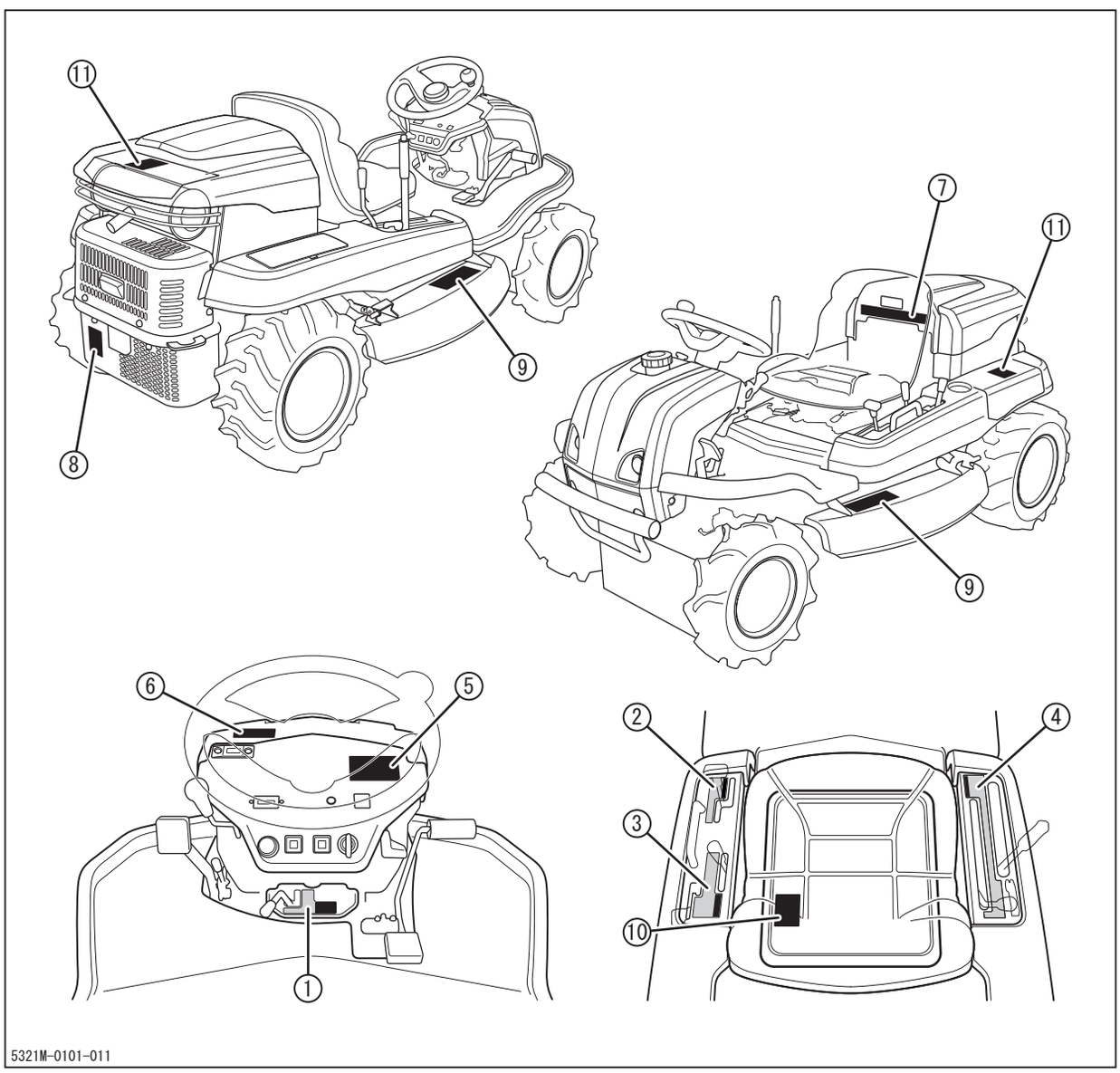
本製品に添付してある警告ラベルについて

本製品には下記の警告ラベルが添付してあります。
この警告ラベルは安全に関して特に注意を要する事項について記載してあります。本製品を使用する際には必ず警告ラベルの指示に従い、禁止事項は絶対に行わないでください。

・警告ラベルの位置および内容について十分把握しておいてください。

・警告ラベルは内容がわかるようにいつもきれいにしておいてください。
また、清掃には有機溶剤やガソリンを使用しないでください。

・警告ラベルを損傷・紛失したり判別できなくなったりした場合は、新品と交換してください。部品番号は本書または実物で確認し、販売店へ注文してください。



5321M-0101-011

① 5321 5008 000



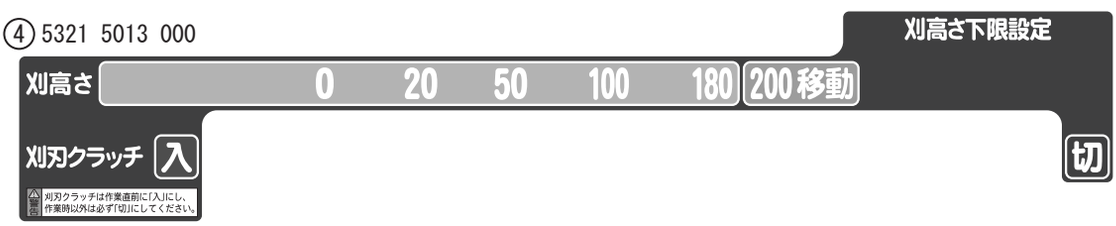
② 5321 5011 000



③ 5321 5012 000



④ 5321 5013 000



⑤ 5321 5021 000



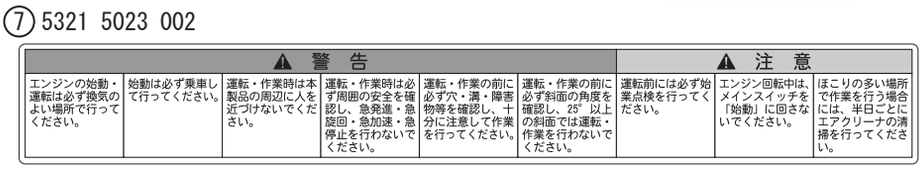
⑥ 5321 5022 000



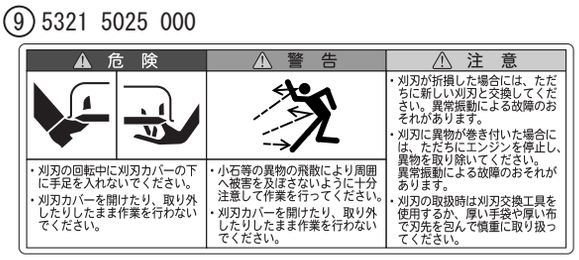
⑧ 5321 5024 000



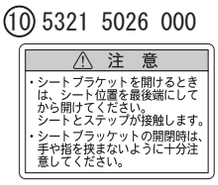
⑦ 5321 5023 002



⑨ 5321 5025 000



⑩ 5321 5026 000



⑪ 3655 6015 000



5321M-0101-020SD

本製品に装備されている安全装置について

本製品には以下の安全装置が装備されています。

始動安全装置

駐車ブレーキ「 Ⓟ（入）」、刈刃クラッチ「切」の状態でのみエンジンが始動します。
エンジン始動の際に車両が暴走したり、刈刃が回転したりすることによる事故を防止します。

刈刃自動停止装置

刈刃が回転中に作業者がシートから離れると、エンジンが停止します。
車両が転倒した場合等に回転する刈刃による事故を防止します。

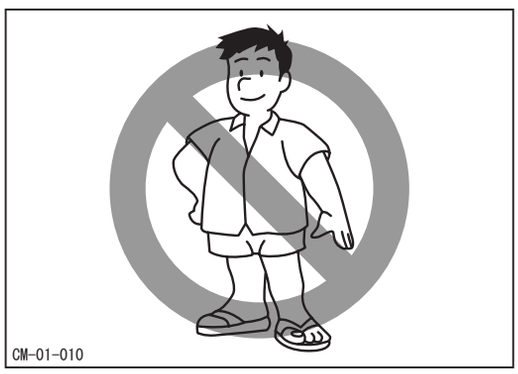
車両自動停止装置

走行レバーでの走行時にシートが後に傾くと、走行レバーが「 ● （中立）」に戻り、車両が停止します。
走行中に木の枝等に体を引っ掛け、走行レバーに手が届かずに操作不能となる事故を防止します。
走行ペダルは足を離すと自動的に中立に戻るようになっているため、この装置とは連動していません。

安全運転・作業のための心得

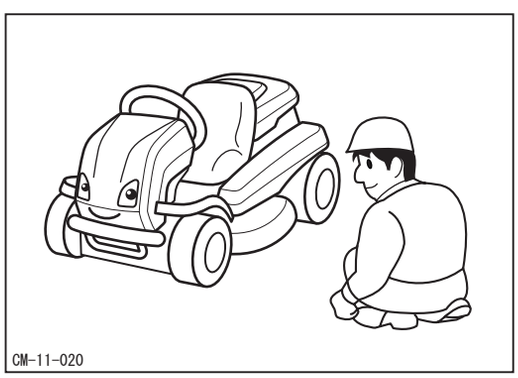
運転・作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。運転・作業時には各章に記載されている安全事項についても必ず従い、安全運転・安全作業を心がけてください。

運転前の心得



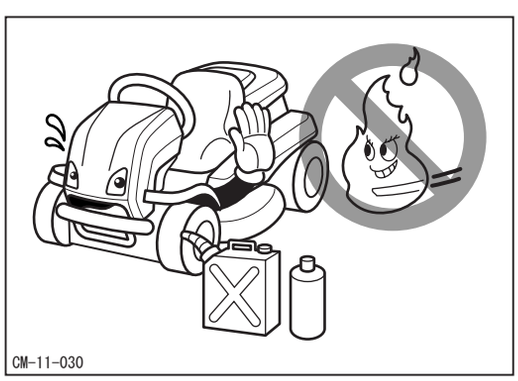
正しい服装と保護具の着用

運転・作業にふさわしい服を着用し、軽装やサンダル履き等で運転・作業をしないでください。また、ヘルメット、保護靴、保護めがね、手袋等の保護具を着用してください。



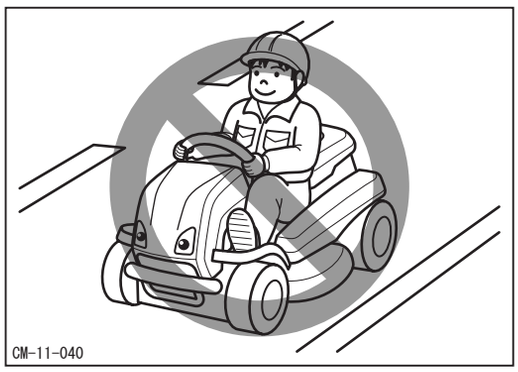
始業点検の励行

運転の前に必ず始業点検を行い、異常箇所はただちに補修してください。
また、車両に堆積した草等はきれいに取り除いてください。火災のおそれがあります。

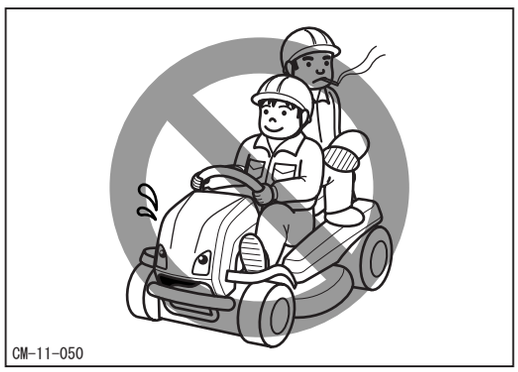


火気厳禁

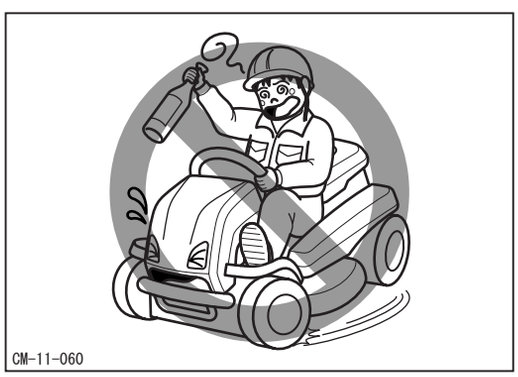
燃料・油脂の取扱時は、火気を近づけないでください。
また、給油は必ずエンジンを停止した状態で行なってください。



公道乗車禁止
本製品は公道および公道とみなされる道路での運転はできません。

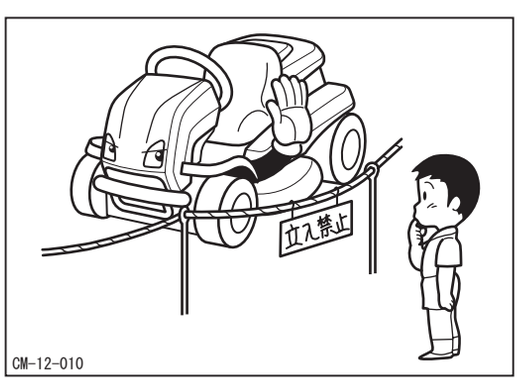


同乗禁止
本製品は一人乗りです。運転者以外は乗せないでください。

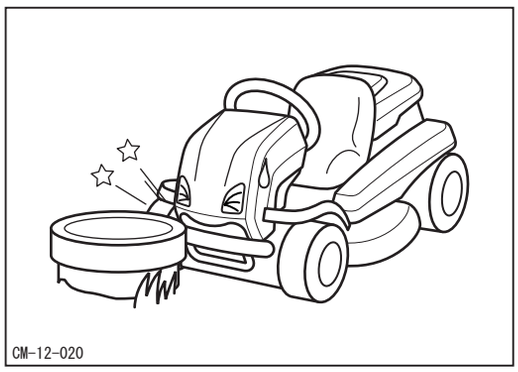


無謀運転禁止
飲酒時や体調不良時には運転・作業を行わないでください。また、本製品の運転・作業に適さない人による運転・作業も行わないでください。

運転・作業時の心得

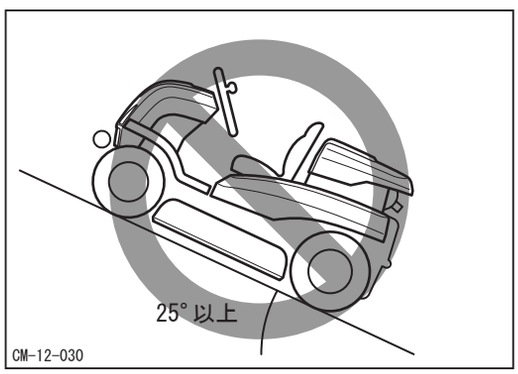


作業中の安全確保（立入禁止）
運転・作業時は本製品の周辺に人（特に子供）を近づけないでください。
必要な場合には、草刈作業中であることを掲示し、ガードロープを張る等してください。


CM-12-020

穴・溝・障害物等に注意

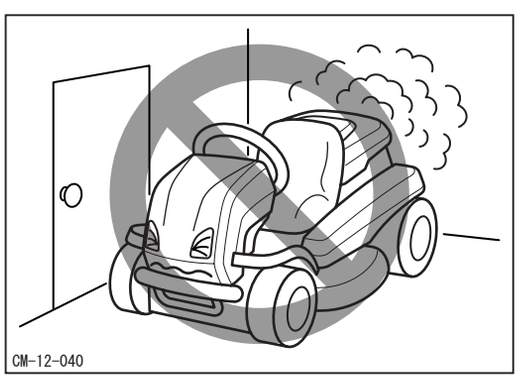
運転・作業の前に必ず穴・溝・障害物等を確認し、十分に注意して運転・作業を行ってください。



CM-12-030

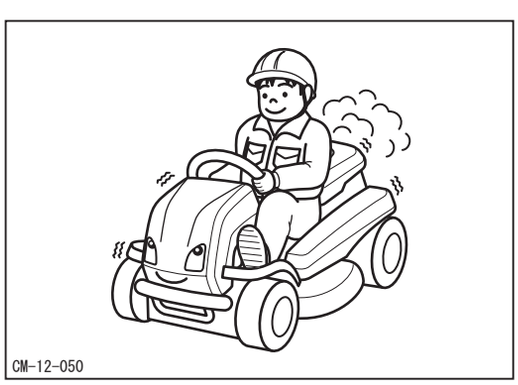
急傾斜地での使用禁止

運転・作業の前に必ず斜面の角度を確認し、25°以上の傾斜地では運転・作業を行わないでください。


CM-12-040

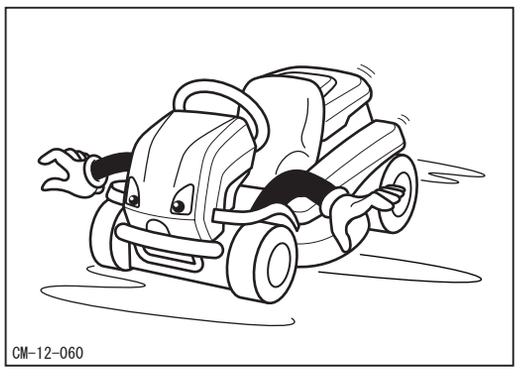
換気の悪い場所での始動・運転禁止

エンジンの始動・運転は必ず換気のよい場所で行なってください。排気ガスによる中毒のおそれがあります。


CM-12-050

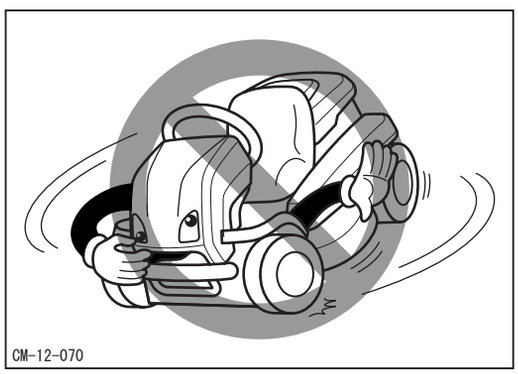
始動は乗車して行なう

始動は必ず乗車して行ってください。降車状態での始動は万一の場合に車両にひかれるおそれがあります。


CM-12-060

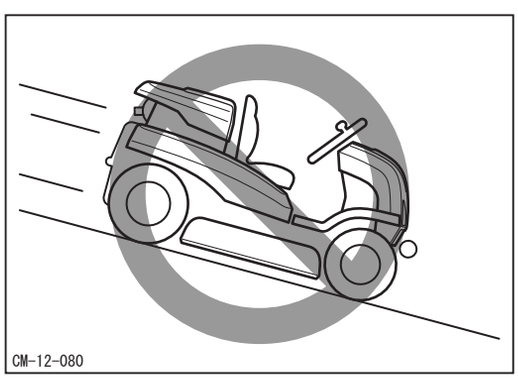
安全速度遵守

発進時は必ず周囲の安全を確認し、走行時は路面の勾配や状態に応じた安全速度で走行してください。


CM-12-070

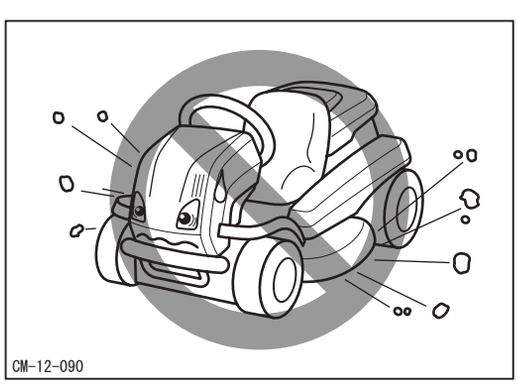
急発進・急加速・急旋回・急停止の禁止

急発進・急加速・急旋回および急停止を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。


CM-12-080

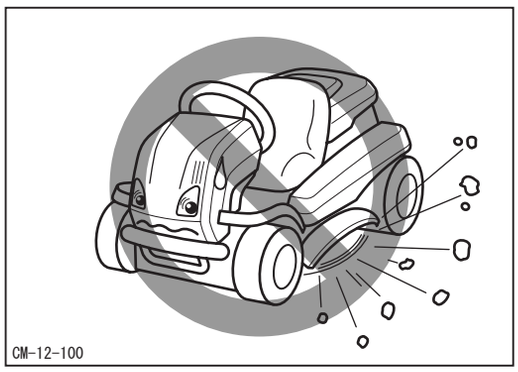
傾斜地での注意

傾斜地では副変速を「低速」にし、低速で走行・旋回してください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。


CM-12-090

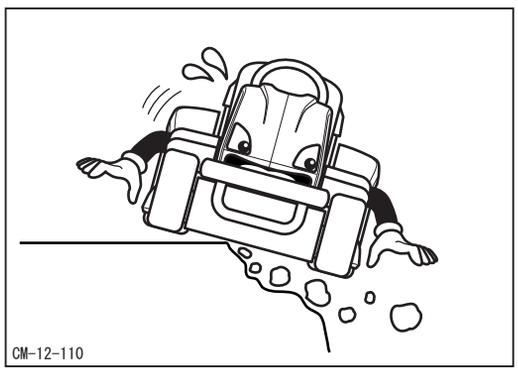
周囲へ配慮する

小石等の異物の飛散により、人や動物、農作物、建築物、自動車等へ被害を及ぼさないように十分に注意して作業を行ってください。



刈刃カバーを開けての作業禁止

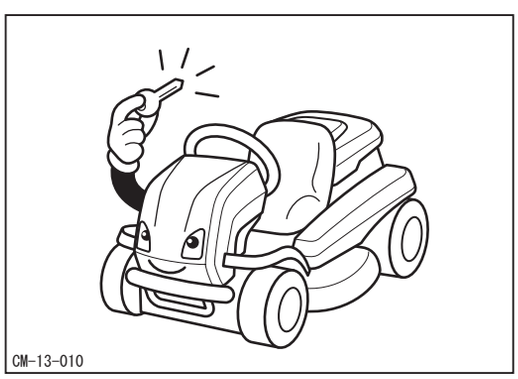
刈刃カバーを開けたまま作業を行わないでください。小石等の異物の飛散により周囲へ被害を及ぼすおそれがあります。



路肩の崩れに注意

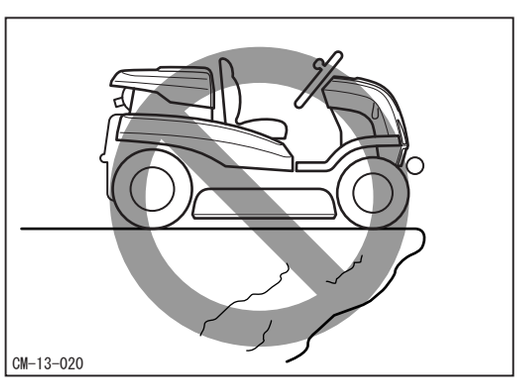
溝や土手の端は作業を行わないでください。路肩が崩れるおそれがあります。特に降雨後や地震後は注意してください。

駐車時の心得



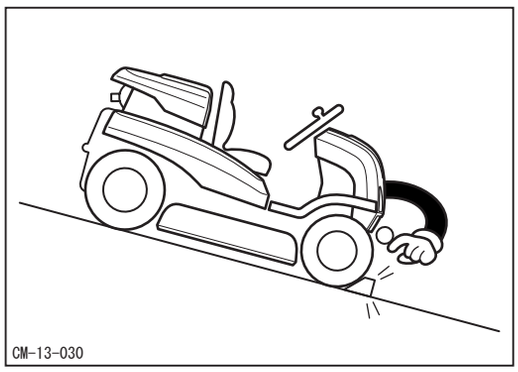
駐車時の安全確認

駐車時は必ず駐車ブレーキをかけ、キーを抜き取ってください。



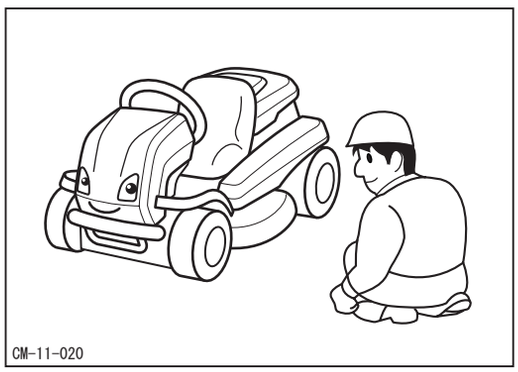
危険な場所での駐停車禁止

駐停車時は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐停車しないでください。
また、燃えやすいものの近くには駐停車しないでください。



傾斜地での輪止め励行

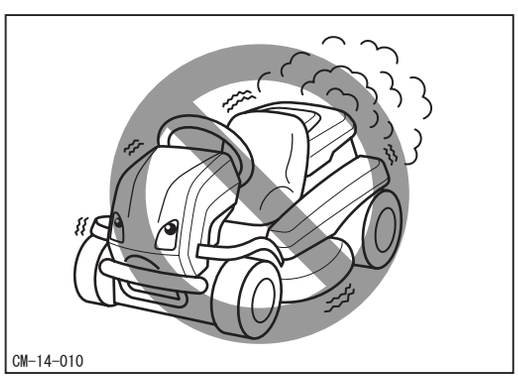
傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する場合は、輪止めをしてください。



使用後の清掃の励行

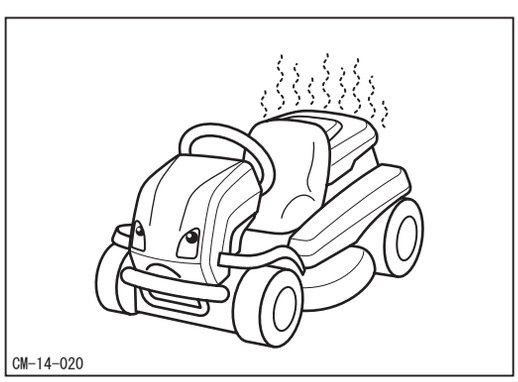
使用後は、車両に堆積した草等をきれいに取り除いてください。火災のおそれがあります。

整備時の心得



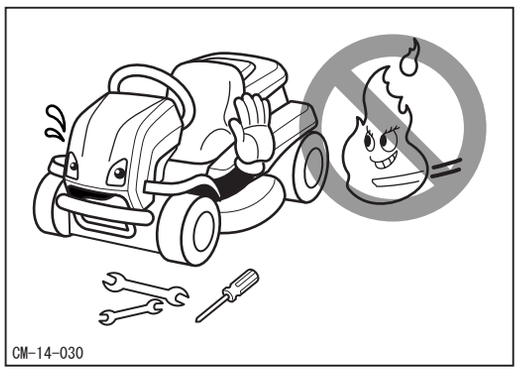
点検・整備時エンジン停止

点検・整備時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。



やけどに注意

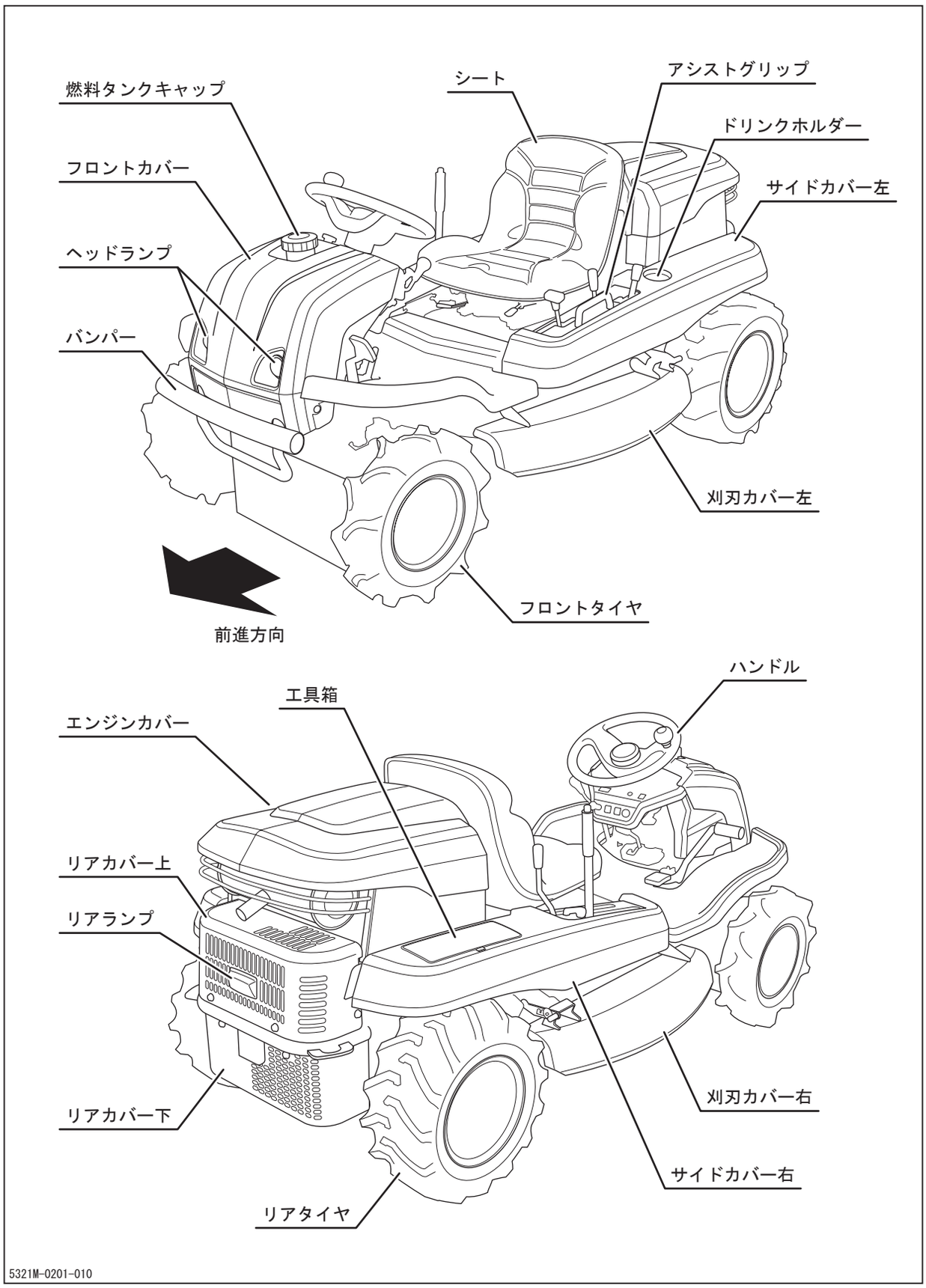
エンジン停止直後は各部およびオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。



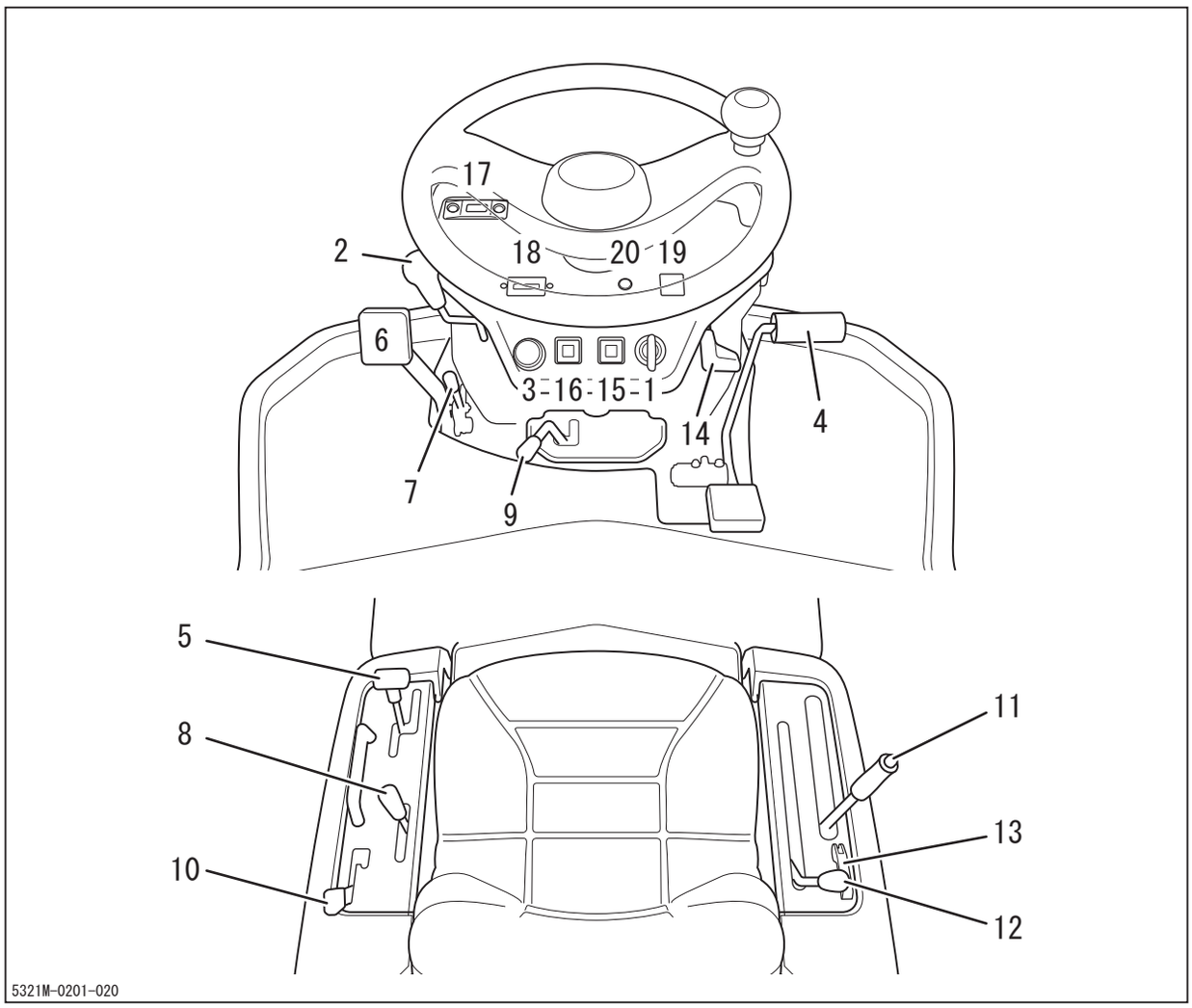
火気厳禁

エンジンの整備時やバッテリの充電時は、火気を近づけないでください。

各部の名称とはたらき


燃料タンクキャップ
シート
アシストグリップ
ドリンクホルダー
フロントカバー
サイドカバー左
ヘッドランプ
バンパー
刈刃カバー左
フロントタイヤ
前進方向
ハンドル
工具箱
エンジンカバー
リアカバー上
リアランプ
刈刃カバー右
リアカバー下
サイドカバー右
リアタイヤ
5321M-0201-010

2　各部の名称とはたらき



1　**メインスイッチ** ·····エンジンを始動および停止させるときに使用します。

2　**アクセルレバー** ·····エンジン回転数を増減させるときに使用します。

3　**チョークノブ** ·····エンジンを始動させるときに使用します。ノブを引くとチョークバルブが閉じ、戻すと開きます。

4　**走行ペダル** ·····車両を走行させるときに使用します。ペダルの前方を踏み込むと前進し、後方を踏み込むと後進します。ペダルを踏み込む量により走行速度を無段階に調整します。

5　**走行レバー** ·····車両を走行させるときに使用します。レバーを前方へ倒すと前進し、後方へ倒すと後進します。レバーを倒す角度により走行速度を無段階に調整します。

6　**ブレーキペダル** ・・・・・・・・・・・・車両を停止させるときに使用します。ペダルを踏むと走行レバーが中立に戻り、ブレーキがかかります。

7　**駐車ブレーキロックレバー** ・・車両を駐車させるときに使用します。ブレーキペダルを踏み込んだ状態でレバーを手前に引くとブレーキペダルがロックされます。

8　**副変速レバー** ・・・・・・・・・・・・・・車両の走行速度を切り替えるときに使用します。

9　**2WD⇔AWD切替レバー** ・・・・・・・・2WD（後輪駆動）とAWD（全輪駆動）を切り替えるときに使用します。

10 **デフロックレバー** ・・・・・・・・・・後輪がスリップするときに使用します。レバーを「入」にするとデフロックの状態になります。

11 **刈高さ調節レバー** ・・・・・・・・・・刈刃を上昇または下降させるときに使用します。

12 **刈刃クラッチレバー** ・・・・・・・・・刈刃を回転および停止させるときに使用します。

13 **刈高さ下限設定レバー** ・・・・・・・刈高さの下限位置を設定するときに使用します。

14 **ハンドル角度調節レバー** ・・・・ハンドル角度を調節するときに使用します。

15 **ヘッドランプスイッチ** ・・・・・・・ヘッドランプを点灯および消灯させるときに使用します。ヘッドランプ点灯時にスイッチが点灯します。

16 **リアランプスイッチ** ・・・・・・・・・リアランプを点灯および消灯させるときに使用します。リアランプ点灯時にスイッチが点灯します。

17 **燃料計** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・燃料の残量を表示します。

18 **アワメータ** ・・・・・・・・・・・・・・・累計稼働時間を0.1時間単位で示します。

19 **油圧警告灯** ・・・・・・・・・・・・・・・エンジンオイルの油圧異常時に点灯します。エンジン始動後、消灯すれば正常です。

20 **スタートランプ** ・・・・・・・・・・・・エンジン始動が可能な状態（駐車ブレーキ「入」、刈刃クラッチ「切」）になると点灯します。

本製品の仕様

⚠ 注 意

・本製品の仕様を理解した上で、正しく使用してください。

名称・型式				BRM220-AWD
機械質量			kg	355
作業能率			m^2/h	7300*1
機械寸法	全長		mm	1970
	全幅		mm	1040
	全高		mm	940
	ホイールベース		mm	1365
	トレッド		mm	前 810 / 後 780
	最低地上高		mm	145
エンジン	名称			ロビン EH65DS
	形式			空冷4サイクルV型2気筒ガソリン
	シリンダ(内径×行程)		mm	80×65
	総排気量		cm^3	653
	最大出力		kW(PS)/rpm	16.4(22.0)/3600
	最大トルク		N･m(kgf･m)	45.6(4.65)
	始動方式			セルフスタータ式
	使用燃料			自動車用無鉛ガソリン
	燃料消費率		g/kW･h(g/PS･h)	310(230)
	燃料タンク容量		ℓ	15.0
	点火方式			無接点式マグネト点火
	点火プラグ品番			NGK BPR5ES
電装	バッテリ形式			38B19R
	バッテリ電圧		V	12
	バッテリ10時間率容量		Ah	28
性能	駆動方式			AWD
	走行速度	高速	km/h	0～12.1(無段変速)
		低速	km/h	0～7.5(無段変速)
	最小回転半径		m	1.99
	登坂能力		度	25
	最大安定傾斜角度	左	度	30
		右	度	30

*1　副変速低速時の最高速度での最高能率（計算値）

名称・型式				BRM220-AWD
走行装置	主変速形式			ＨＳＴ（無段変速）
	副変速形式			常時噛合式
	タイヤ	前輪		TA 4.00-8（2PR）
		後輪		19×8.00-10（4PR）
	ステアリング形式			ラック＆ピニオン式　丸ハンドル
	ブレーキ形式			内拡式ブレーキ
刈取装置	刈幅		mm	975
	刈高		mm	0～180(無段階)
	刈刃形式			フリーナイフ＆段付ステー
	刈刃枚数		枚	2
	刈刃駆動方式			シャフト駆動

※この仕様は、改良のため予告なく変更する場合があります。

付属品明細

No.	部品名	個数	備考
1	取扱説明書	1	本書
2	エンジン取扱説明書	1	
3	バッテリ取扱説明書	1	
4	エンジン工具	1	エンジン整備用

運転前の準備

始業点検

⚠ 警 告

・運転の前には、必ず始業点検を行い、異常箇所はただちに補修してください

・車両に堆積した草等はきれいに取り除いてください。火災のおそれがあります。

運転前には必ず始業点検を行ってください。
点検の要領については**「定期点検表」**（☞36ページ）を参照してください。

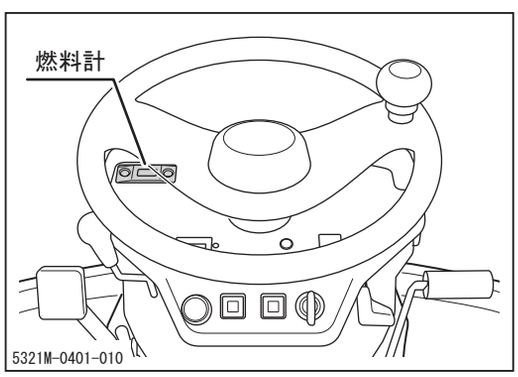
燃料の点検と補給

⚠ 警 告

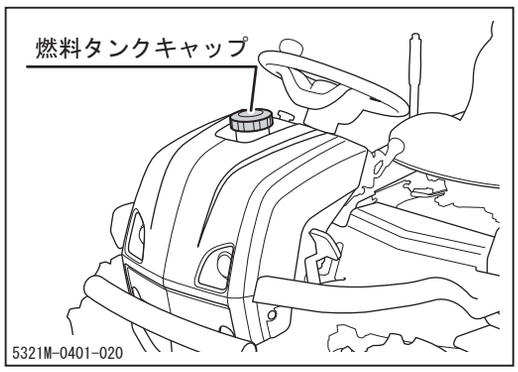
・燃料の取扱時は、火気を燃料に近づけないでください。

・給油は必ずエンジンを停止した状態で行ってください。

・給油は油面上限（給油口内フィルタ底面）以下になるようにして、給油口から燃料がこぼれないよう十分注意してください。燃料がこぼれた場合にはすみやかに拭き取ってください。



1. 燃料計を確認し、燃料が不足している場合は、燃料を補給します。



2. 燃料タンクキャップを開け、燃料を補給します。
3. 燃料タンクキャップを確実に閉めます。

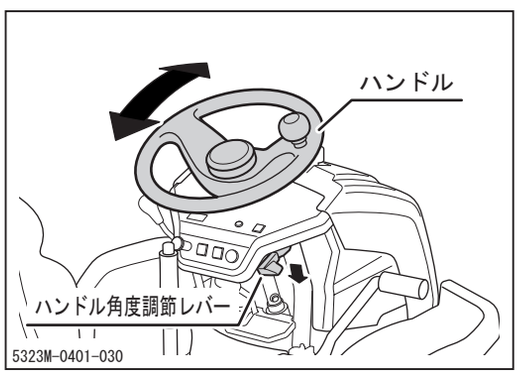
アドバイス

・使用燃料：自動車用無鉛ガソリン
・燃料タンク容量：15.0ℓ

ハンドル位置の調節

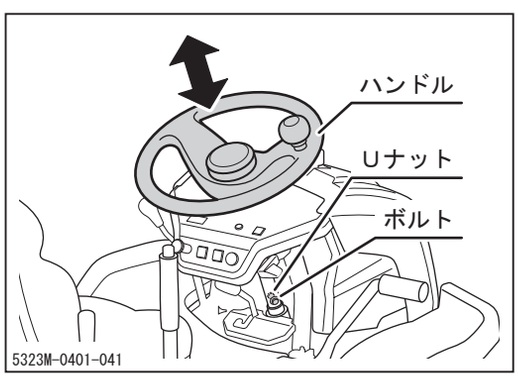
⚠ 注 意

・ハンドルの調節後は、ハンドルを前後上下に動かし、確実に固定されていることを確認してください。



角度の調節

1. ハンドル角度調節レバーを下げながらハンドルを動かし、ハンドル角度を調節します。
2. ハンドル角度は3段階に調節することができます。
3. 調節後、ハンドル角度調節レバーを戻し、ハンドルを確実に固定します。



高さの調節

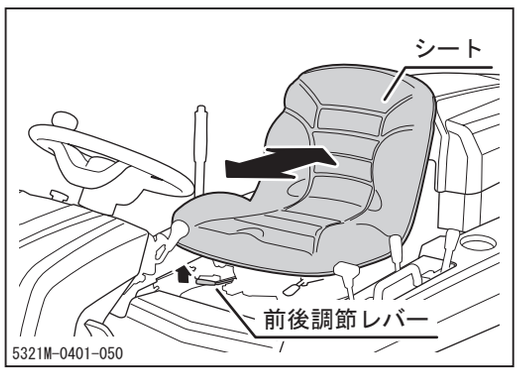
1. Uナットを取り外し、ボルトを引き抜きます。
2. ハンドルを上下に動かして高さを調節します。高さは3段階に調節することができます。
3. 穴位置を合わせてボルトを差し込み、Uナットを取り付け、ハンドルを確実に固定します。

シートスライドの調節

⚠ 注 意

・調節時に手や指をはさまないように十分注意してください。

・調節後は、シートを前後に動かし、確実に固定されていることを確認してください。

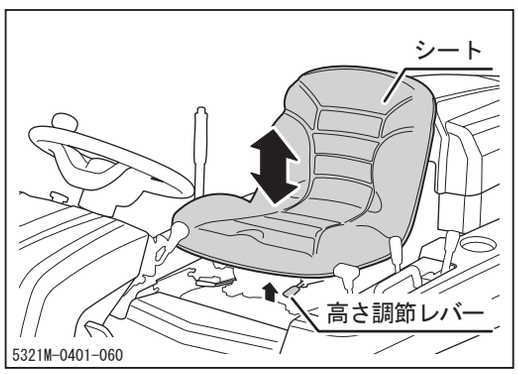


1. 前後調節レバーを上に引き、シートを前後にスライドさせて調節します。
2. 調節後、レバーを戻し、シートを確実に固定します。

シート高さの調節

⚠ 注 意

・調節時に手や指をはさまないように十分注意してください。



1. 高さ調節レバーを上に引き、シートの高さを調節します。高さは無段階に調節できます。
2. 調節後、レバーを戻します。

運転のしかた

始動のしかた

⚠ 警 告

・エンジンの始動は必ず換気のよい場所で行ってください。排気ガスによる中毒のおそれがあります。

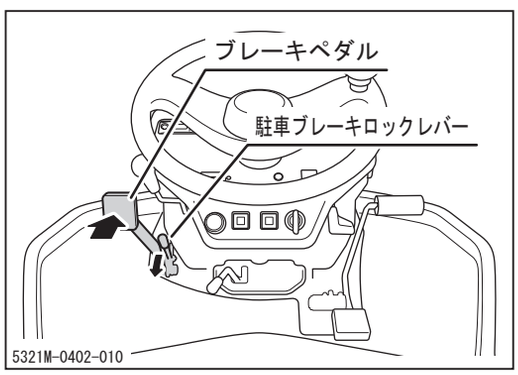
・始動は必ず乗車して行ってください。降車状態での始動は万一の場合に車両にひかれるおそれがあります。

⚠ 注 意

・エンジン回転中は、メインスイッチを「 （始動）」に回さないでください。スタータモータおよびエンジン破損の原因となります。

・5秒以上スタータモータを回さないでください。始動しない場合はメインスイッチを「 ○ （切）」に戻し、10秒以上休んでから再始動してください。

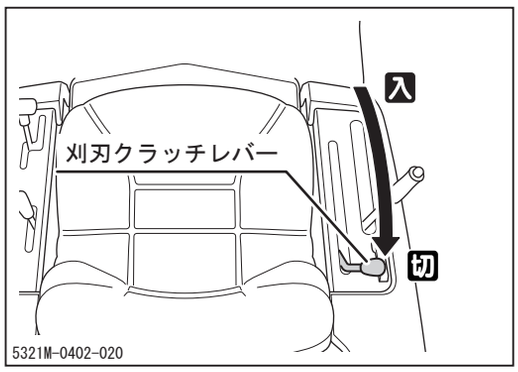
・冬期または寒冷地では十分に暖機運転を行ってください。十分に暖まらないうちに運転すると、エンジンや油圧機器の寿命を短くすることになります。



1. ブレーキペダルがロックされていることを確認します。ロックされていない場合は、駐車ブレーキロックレバーを手前に引きながらブレーキペダルを踏み込み、ロックします。

アドバイス

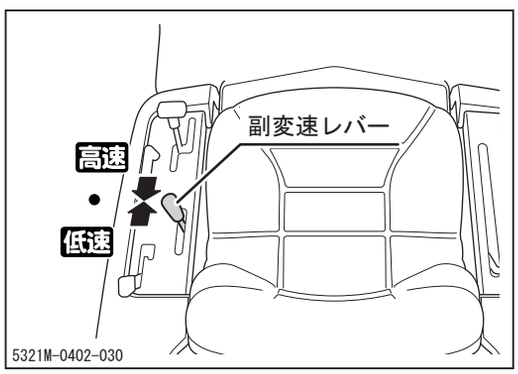
・本製品は始動安全装置を装備しているため、ブレーキペダルを踏み込まないとエンジンを始動できません。



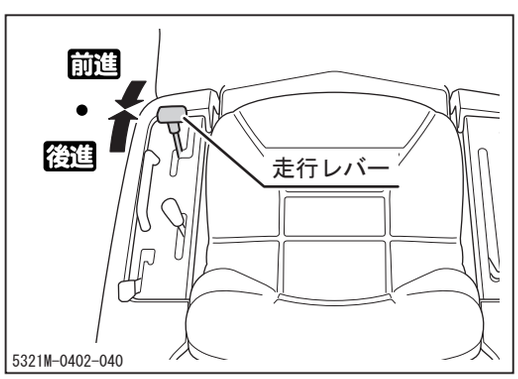
2. 刈刃クラッチレバーが「切」にあることを確認します。

アドバイス

・本製品は始動安全装置を装備しているため、刈刃クラッチレバーが「切」にないとエンジンを始動できません。



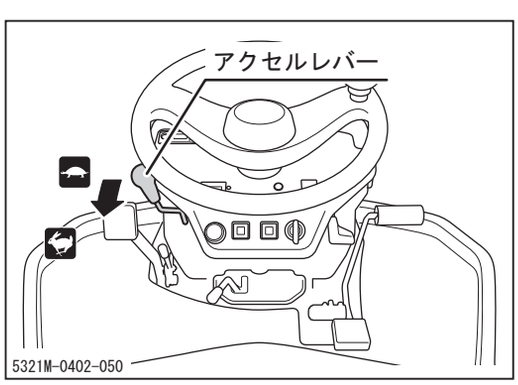
3. 副変速レバーが「 ● （中立）」にあることを確認します。



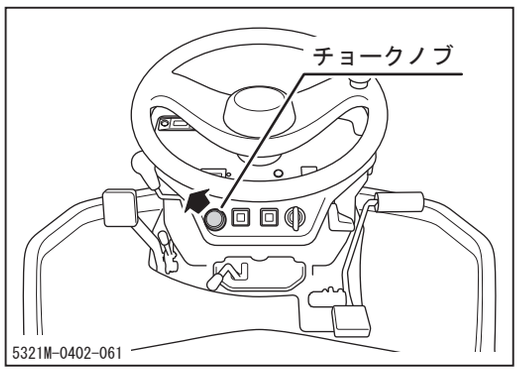
4. 走行レバーが「 ● （中立）」にあることを確認します。

アドバイス

・ブレーキペダルを踏み込むと走行レバーが「 ● （中立）」になります。



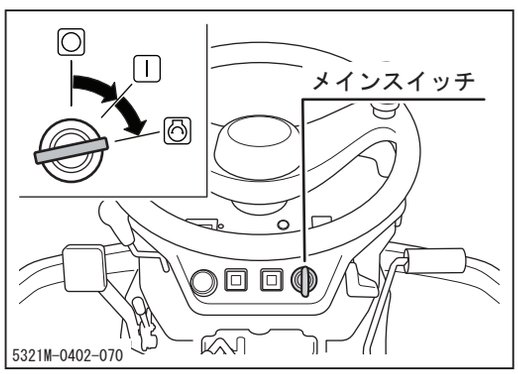
5. アクセルレバーを「 （高速）」側に少し動かします。



6. チョークノブを引きます。

アドバイス

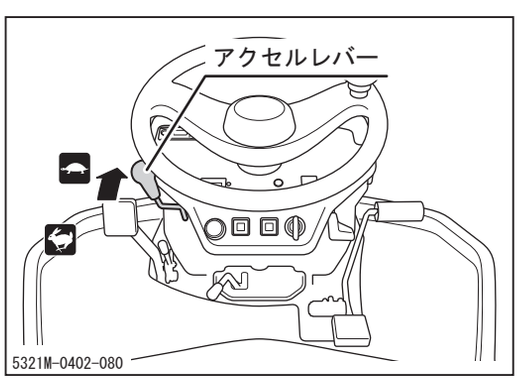
・エンジンが暖まっている場合はこの操作は必要ありません。



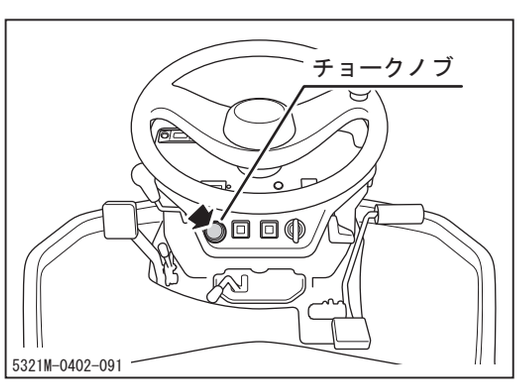
7. メインスイッチにキーを差し込みます。
8. メインスイッチを「 （始動）」まで回し、エンジンを始動します。始動後はすぐにキーから手を離してください。キーは自動的に「 （入）」に戻ります。

アドバイス

・頻繁な再始動はなるべく避け、エンジンを始動したら、しばらく連続運転をして、バッテリを充電するようにしてください。



9. アクセルレバーを「 （低速）」にします。



10. チョークノブを戻します。
11. 約5分間、無負荷で暖機運転をします。

アドバイス

・購入後、最初の一週間（約40～50時間）はならし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。

運転のしかた

⚠ 警 告

・運転時は本製品の周辺に人を近づけないでください。

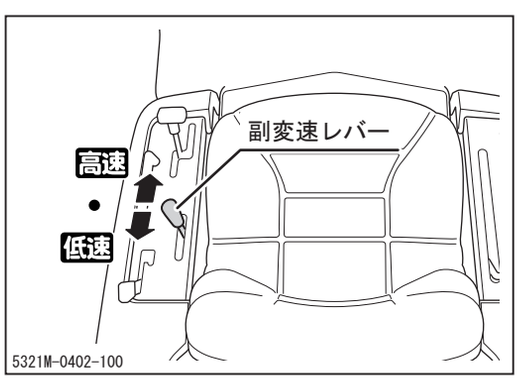
・発進時は必ず周囲の安全を確認し、走行時は路面の勾配や状態に応じた速度で走行してください。

・急発進・急加速・急旋回を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。

・傾斜地では副変速を「低速」にし、低速で走行・旋回してください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。

・走行ペダルと走行レバーを同時に使用しないでください。走行ペダルから足を放しても車両が停止せず、車両が暴走するおそれがあります。

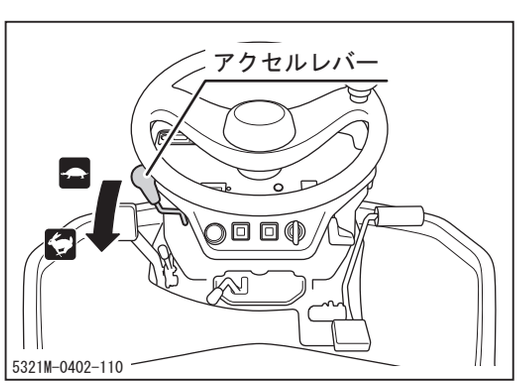
・走行中にメインスイッチを「 ◯（切）」にしないでください。



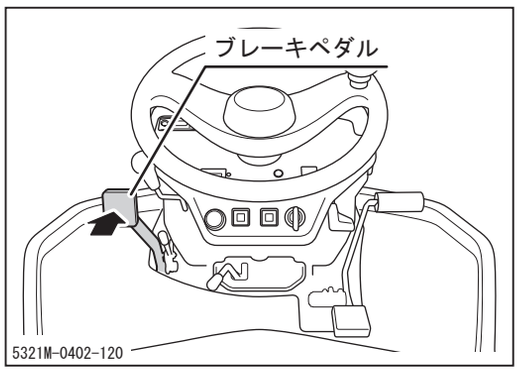
1. 車両の前後、左右の安全を確認します。
2. 副変速レバーを「低速」または「高速」にします。

アドバイス

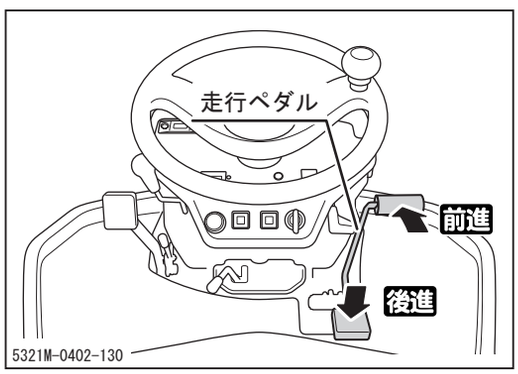
・各変速位置での走行速度については、「本製品の仕様」（☞14ページ）を参照してください。



3. アクセルレバーを「 （高速）」にして、エンジンの回転数を上げます。



4. ブレーキペダルを奥まで踏み込み、駐車ブレーキロックレバーを解除します。

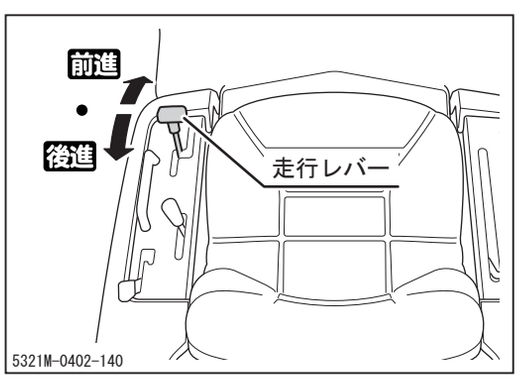


走行ペダルでの走行

5. 走行ペダルを進行方向に踏み込み、走行します。

アドバイス

・走行ペダルを踏み込む量によって無段階に速度を調節することができます。

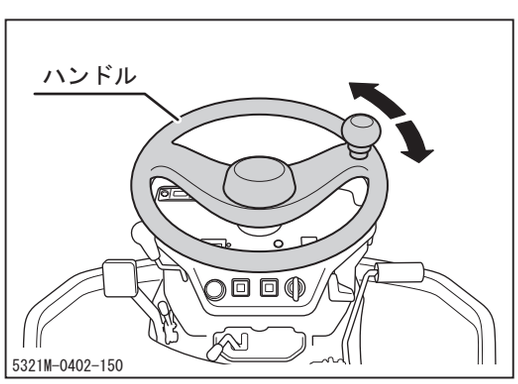


走行レバーでの走行

5. 走行レバーを進行方向に動かし、走行します。

アドバイス

・走行レバーを動かす量によって無段階に速度を調節することができます。
・走行レバーでの走行時にシートが後に傾くと、車両自動停止装置が作動し、走行レバーが「 ● （中立）」になり、車両が停止します。



6. 旋回をするときは、ハンドルを旋回したい方向に回し、旋回します。

停止のしかた

⚠ 警　告

・急停止を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。

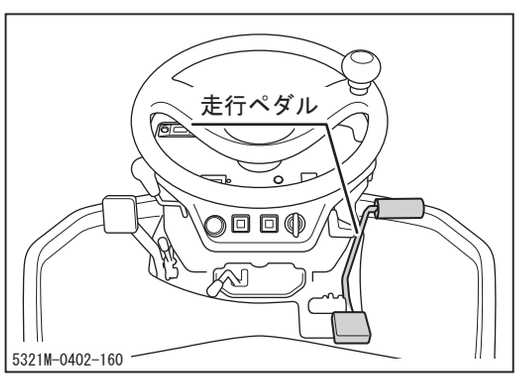
・停止時は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には停止しないでください。

・燃えやすいものの近くには停止しないでください。

⚠ 注　意

・走行ペダルを踏んだままブレーキペダルを踏まないでください。ＨＳＴを破損するおそれがあります。

・走行レバーを持ったままブレーキペダルを踏まないでください。ＨＳＴを破損するおそれがあります。

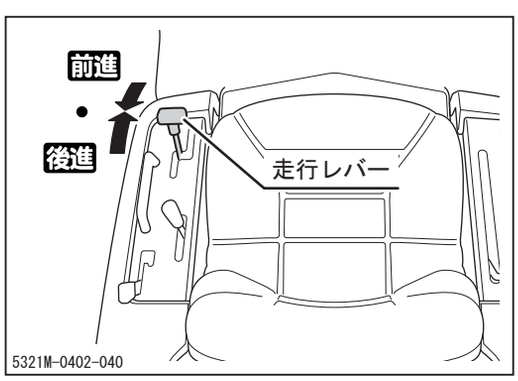


走行ペダル使用時

1. 走行ペダルを徐々に戻し、速度を落とします。
2. 走行ペダルから足を離します。

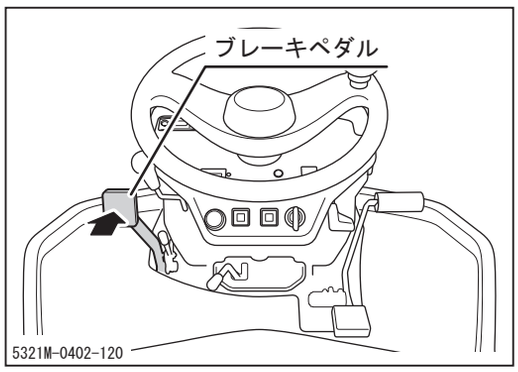
アドバイス

・走行レバーが「 ● （中立）」以外になっているときは、走行ペダルから足を放しても車両は停止しません。



走行レバー使用時

1. 走行レバーを「 ● （中立）」に徐々に戻し、速度を落とします。
2. 走行レバーから手を離します。



3. ブレーキペダルを踏み込んで、完全に停止します。

アドバイス
・ブレーキペダルを踏み込むと走行レバーが「 ● （中立）」になります。

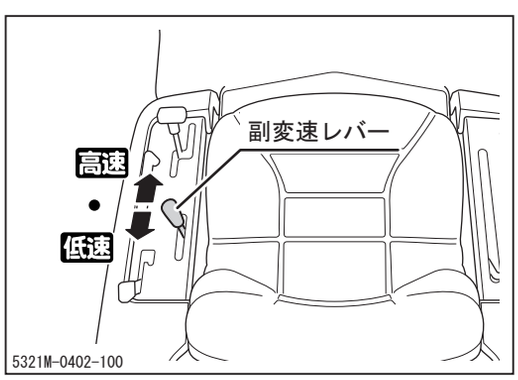
変速のしかた

⚠ 警 告

・変速操作は確実に行ってください。変速操作が不十分な場合、ギヤ抜けのおそれがあります。

⚠ 注 意

・変速操作は停止してから行ってください。走行中に行うとトランスミッションを破損するおそれがあります。



1. 車両を確実に停止します。
2. 副変速レバーを「低速」または「高速」に確実に入れます。

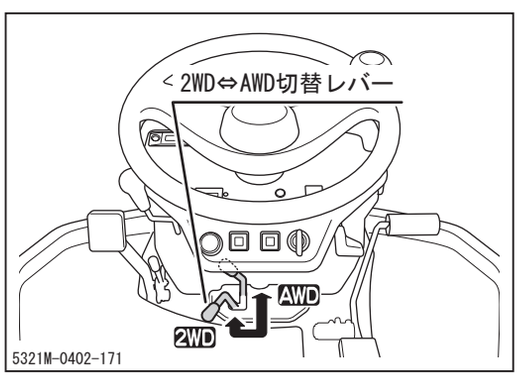
アドバイス
・各変速位置での走行速度については、「本製品の仕様」（☞14ページ）を参照してください。

2WD⇔AWDの切り替えかた

傾斜地やぬかるみ等の滑りやすい路面では、「AWD」にすると安定して走行できます。

⚠ 注 意

- 2WD⇔AWDの切替操作は停止してから行ってください。走行中に行うとトランスミッションを破損するおそれがあります。
- 通常走行時は2WDで走行してください。
- AWD時は旋回半径が大きくなりますので注意して走行してください。



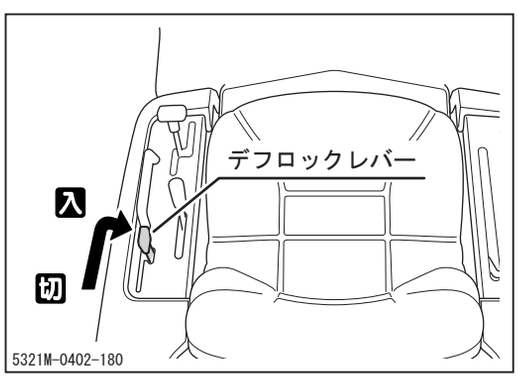
1. 車両を確実に停止します。
2. 2WD⇔AWD切替レバーを「2WD」または「AWD」に確実に入れます。

後輪スリップ時の回避のしかた

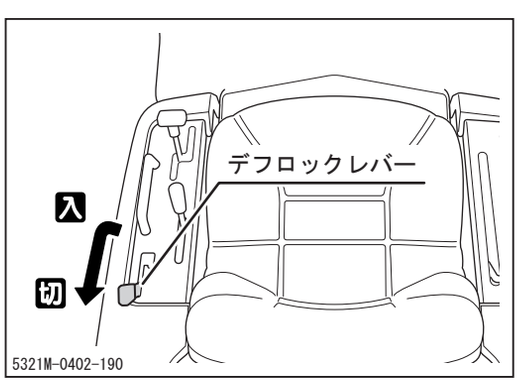
ぬかるみ等で後輪の片側がスリップする場合には、デフロックをすることでスリップを回避することができます。

⚠ 注 意

- デフロックの操作は停止してから行ってください。走行中に行うとデファレンシャルギヤを破損するおそれがあります。
- 通常走行時は必ずデフロックを「切」にしてください。デファレンシャルギヤを破損するおそれがあります。
- デフロックが「入」のまま旋回をしないでください。



1. デフロックレバーを「入」にします。
2. 副変速レバーを「低速」にします。
3. ゆっくりと発進し、ぬかるみ等を脱出します。



4. ぬかるみ等を脱出したら、デフロックレバーを「切」にします。

駐車のしかた

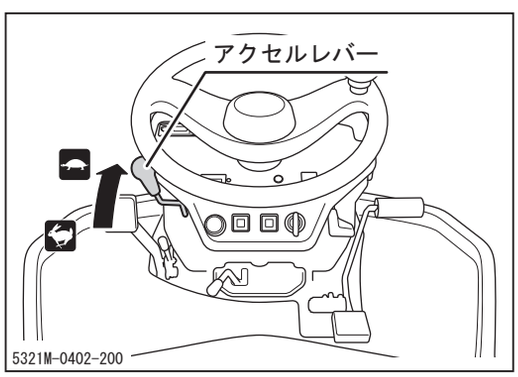
⚠ 警　告

・駐車時は必ず駐車ブレーキをかけ、キーを抜き取ってください。

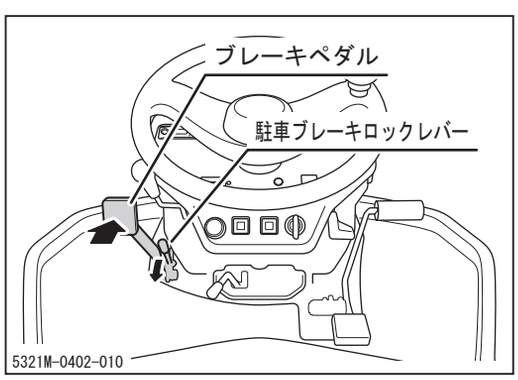
・駐車時は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐車しないでください。

・燃えやすいものの近くには駐車しないでください。

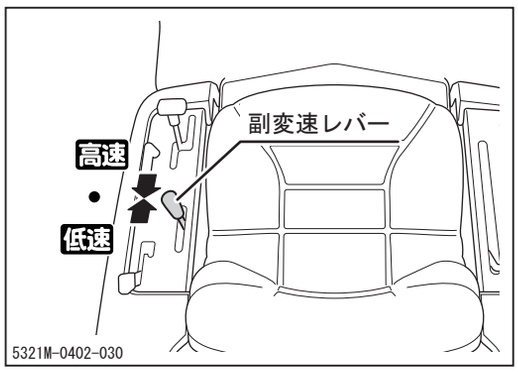
・傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する場合は、輪止めをしてください。



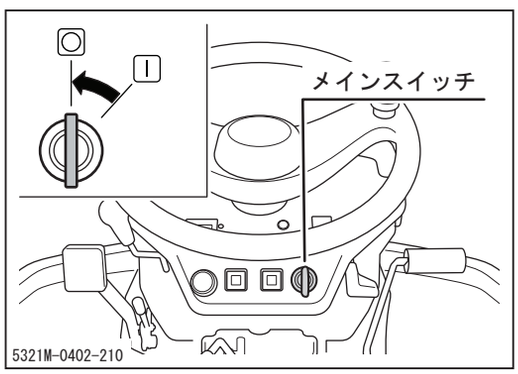
1. 車両を確実に停止します。
2. アクセルレバーを「🐢（低速）」にして、エンジンの回転数を下げます。



3. 駐車ブレーキロックレバーを手前に引きながらブレーキペダルを踏み込み、ブレーキペダルをロックします。



4. 副変速レバーを「 ● （中立）」にします。



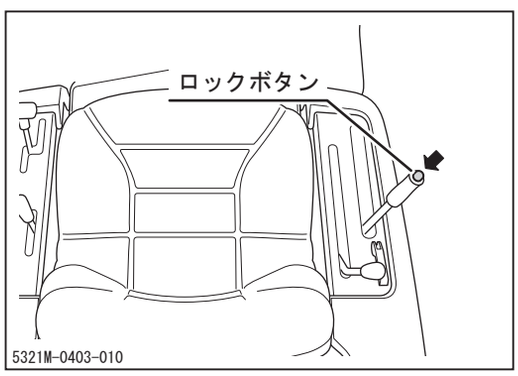
5. メインスイッチを「 ◯ （切）」にして、エンジンを停止し、キーを抜き取ります。

作業のしかた

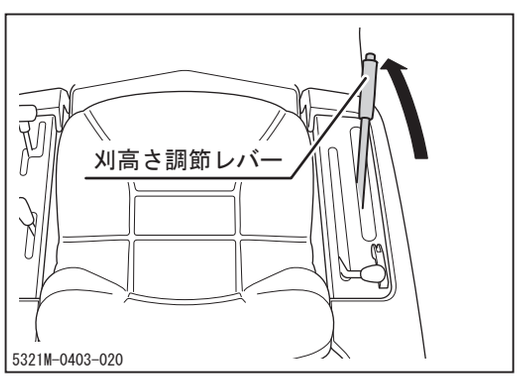
刈刃の点検

作業の前に刈刃の点検を行ってください。点検の方法は**「刈刃の点検・交換」**（☞60ページ）を参照してください。

刈高さ調節レバーの操作



1. ロックボタンを押し、刈高さ調節レバーのロックを解除します。



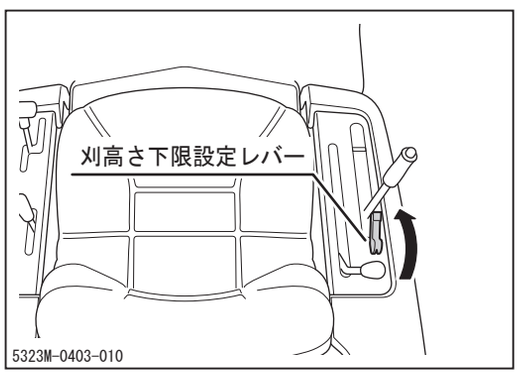
2. ロックボタンを押したまま、刈高さ調節レバーを任意の位置に動かします。
3. ロックボタンを離し、刈高さ調節レバーをロックします。

アドバイス

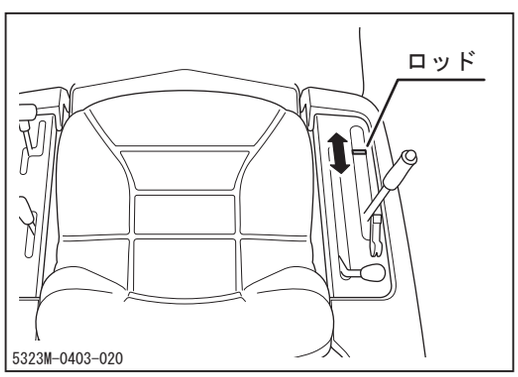
- **刈高さ調節範囲：0mm～180mm**
- **刈高さ調節レバーが「移動」のときは刈刃クラッチレバーが「入」になりません。**
- **刈高さの数値は目安です。地面の状態等により実際の刈高さと異なる場合があります。**

刈高さ下限設定レバーの操作

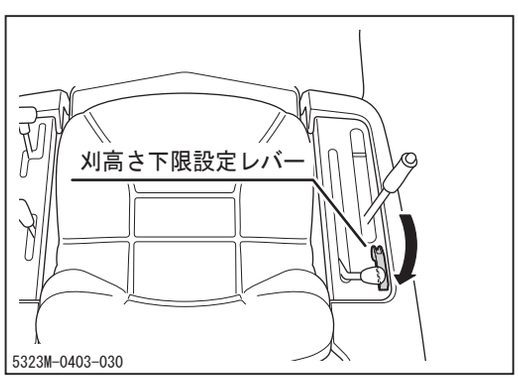
刈高さの下限位置を設定することにより、刈刃の上下を頻繁に行なわなければならない状況下においても、一定の刈高さで作業を行なうことができます。



1. 刈高さ調節レバーを少し下げます。
2. 刈高さ下限設定レバーを起こします。



3. 刈高さの下限に設定したい位置にロッドをスライドさせます。



4. 刈高さ下限設定レバーを倒し、ロッドを固定します。

作業のしかた

⚠ 危　険

・刈刃の回転中に刈刃カバーの下に手足を入れないでください。

⚠ 警　告

・作業時は本製品の周辺に人を近づけないでください。必要な場合には、草刈作業中であることを掲示し、ガードロープを張る等してください。

・作業の前に必ず穴・溝・障害物等を確認し、十分に注意して作業を行ってください。

・作業の前に必ず斜面の角度を確認し、25°以上の傾斜地では作業を行わないでください。

・小石等の異物の飛散により、人や動物、農作物、建築物、自動車等へ被害を及ぼさないように十分に注意して作業を行ってください。

・刈刃カバーを開けたまま作業を行わないでください。小石等の異物の飛散により周囲へ被害を及ぼすおそれがあります。

・作業は前進で行ってください。小石等の異物の飛散により周囲へ被害を及ぼすおそれがあります。

・刈刃クラッチは作業直前に「入」にし、作業時以外は必ず「切」にしてください。

・溝や土手の端は作業を行わないでください。路肩が崩れるおそれがあります。特に降雨後や地震後は注意してください。

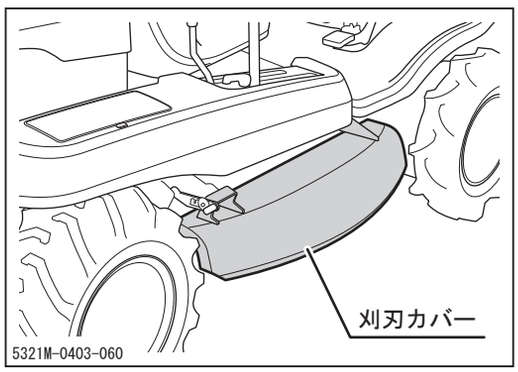
⚠ 注　意

・ほこりの多い場所で作業を行う場合には、半日ごとにエアクリーナエレメントの清掃を行ってください。エレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、寿命低下を引き起こします。

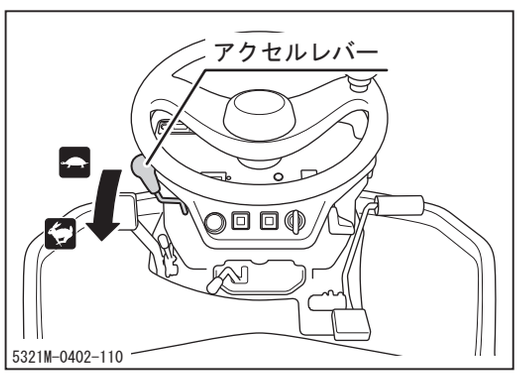
⚠ 注　意

・刈刃が折損した場合には、ただちに新しい刈刃と交換してください。回転バランスがくずれ、異常振動を発生し、故障の原因となります。

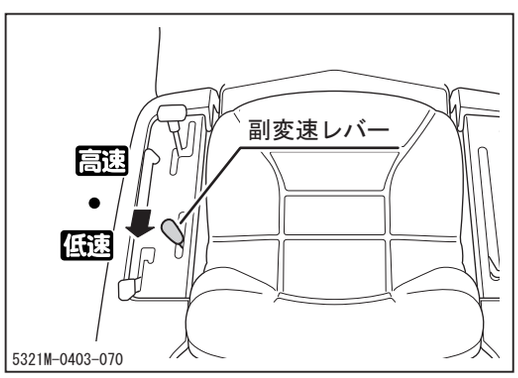
・刈刃に異物が巻き付いた場合には、ただちにエンジンを停止し、異物を取り除いてください。回転バランスがくずれ、異常振動を発生し、故障の原因となります。



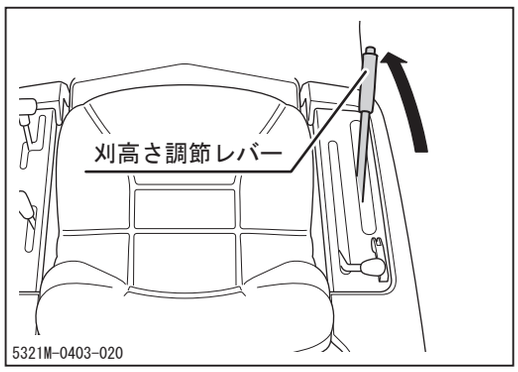
1. 左右の刈刃カバーが閉じていることを確認します。



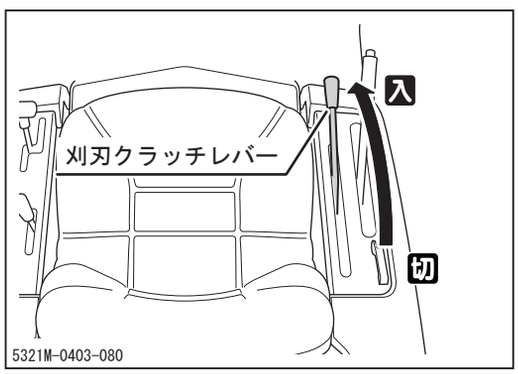
2. アクセルレバーを「 （高速）」にして、エンジンの回転数を上げます。



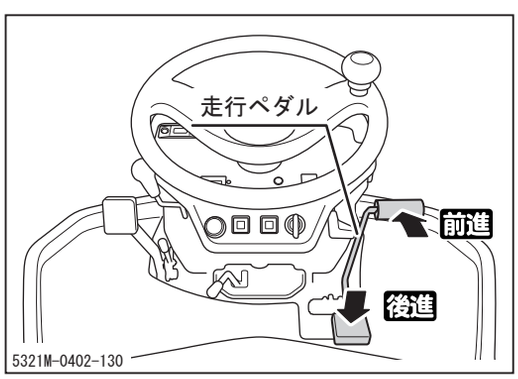
3. 副変速レバーを「低速」にします。



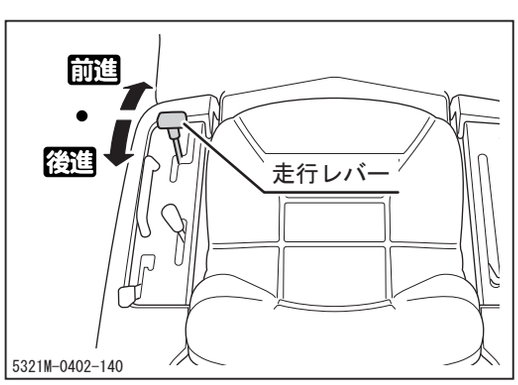
4. 刈高さ調節レバーを任意の位置に動かし、刈高さを設定します。



5. 刈刃クラッチレバーを「入」にして、刈刃を回転します。

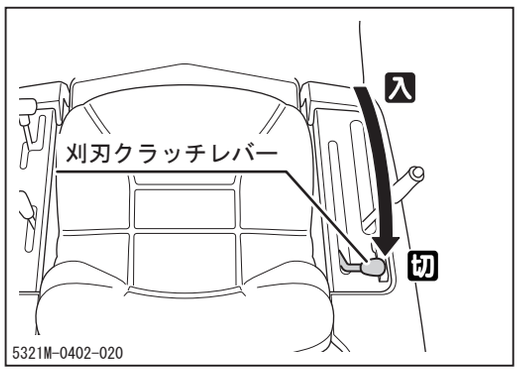


6. 走行して、作業を行います。



アドバイス

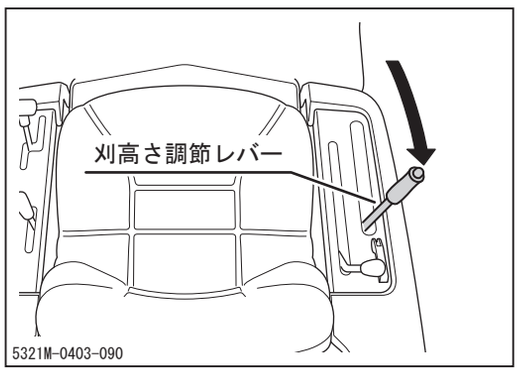
- 初めて作業を行う場合は、平坦地を選び、刈跡が少し重なるようにゆっくりと刈ってください。
- 負荷が大きい場合には、速度を落として作業をするか、2回に分けて刈ってください。
- 刈刃回転中にシートを離れると、刈刃自動停止装置が作動し、エンジンが停止します。



7. 刈刃を停止するときは刈刃クラッチレバーを「切」にして、刈刃を停止します。

アドバイス

・刈刃クラッチレバーを「切」にすると刈刃にブレーキがかかり刈刃が停止します。



8. 刈高さ調節レバーを「移動」にします。

定期点検表

⚠ 注　意

・点検や整備を怠ると事故の原因となります。本製品の正常な機能を維持するために下表を参考に定期点検を行ってください。

エンジンの点検

日常点検

・エンジンオイルの量と汚れ
・エアクリーナエレメントの汚れ
・燃料、オイル等の漏れ
・各部ボルト緩み、破損
・異常振動、異常音

定期点検

運転時間	8時間(毎日)	50時間(毎週)	200時間(毎月)	500時間
各部の清掃及び締付点検	○以下(毎日)			
エンジンオイル点検・補給	○以下(毎日)			
エアクリーナの清掃	○以下(毎日)			
エンジンオイル交換	(初回20時間目)	○		
点火プラグの清掃		○		
燃料ストレーナの交換			○	
エアクリーナエレメントの交換			○	
点火プラグ間隙			○	
オイルフィルタの交換		(初回50時間目)	○	
吸排気弁隙間点検・調整				◎(300時間)
シリンダヘッドカーボン除去				◎
エンジンベース(オイルパン)清掃				◎
気化器清掃				◎
吸排気弁座点検すり合わせ				◎
燃料ホース交換				2年毎
オーバーホール				1000時間

◎印の点検項目は販売店に依頼してください

車両の点検

・始業点検は毎日、月次点検は1ヶ月に1回、年次点検は1年に1回行ってください。

・下記の点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない点検内容については販売店（当社営業所）へ依頼してください。

項目		点検内容	点検時期 始業	月次	年次	備考
走行装置	タイヤホイール	タイヤの空気圧が標準値であること	○	○	○	☞51ページ
		タイヤおよびホイールに亀裂、損傷または偏磨耗がないこと		○	○	
		ホイールボルトに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
		ホイールベアリング部にガタ、異音または異常発熱がないこと		○	○	
	トランスミッション	走行時に異音または異常発熱がないこと		○	○	
		ケース周辺からの油漏れがないこと		○	○	
	副変速	各変速位置に確実に入り作動が適正であること		○	○	
		レバー取付部に緩みまたはガタがないこと		○	○	
	フロントデフフロントナックル	走行時に異音または異常発熱がないこと		○	○	
		ケース周辺からの油漏れがないこと		○	○	
	センターギヤボックス	各変速位置に確実に入り作動が適正であること		○	○	
		走行時に異音または異常発熱がないこと		○	○	
		ケース周辺からの油漏れがないこと		○	○	
	HST	作動が適正であること		○	○	
		油量が適正で著しい汚れがないこと		○	○	☞54ページ
		ペダルおよびレバー取付部に緩みまたはガタがないこと		○	○	
	Vベルト	走行Vベルトの張りが基準値以内であること		○	○	☞56ページ
		走行Vベルトに著しい磨耗または損傷がないこと		○	○	☞56ページ
	ブレーキ	ブレーキの効き具合が適正であること	○	○	○	☞57ページ
	駐車ブレーキ	駐車ブレーキ作動時に25°で停止状態を保持できること		○	○	
	ハンドル	ハンドルを左右に回してハンドルが確実に切れること		○	○	
	ロッドリンクワイヤ類	ロッド、リンクおよびワイヤ類に変形または損傷がないこと		○	○	
		連結部に緩み、ガタまたはワリピンの欠損がないこと		○	○	

項目		点検内容	点検時期 始業	月次	年次	備考
車体・安全装置等	車枠および車体	亀裂、変形または腐食がないこと		○	○	
		ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
	カバー	亀裂、変形または腐食がないこと		○	○	
		カバーの開閉またはロックに異常がないこと		○	○	
		取付ボルトに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
	マーク	警告、操作銘板等に汚れまたは損傷がないこと	○	○	○	
刈取装置	刈取装置	刈刃に亀裂、損傷がないこと	○	○	○	☞58ページ
		カクネマルアタマボルトに亀裂、損傷がないこと	○	○	○	☞58ページ
		刈刃カバーに亀裂、損傷がないこと	○	○	○	
		ゴムイタに損傷、脱落のないこと	○	○	○	
		刈刃Vベルトの張りが基準値以内であること	○	○	○	☞61ページ
		刈刃Vベルトに著しい磨耗または損傷がないこと	○	○	○	☞61ページ
		刈刃ブレーキの効き具合が適正であること	○	○	○	☞62ページ
		給脂が十分であること		○	○	☞40ページ
電装品	充電装置	正常に作動すること			○	
	バッテリ	電解液の量が規定範囲内にあること		○	○	☞64ページ
		端子部に緩みまたは著しい腐食がないこと		○	○	
	ヘッドランプ	正常に点灯すること	○	○	○	
	リアランプ	レンズに破損または水等の浸入がないこと		○	○	
	配線	接続部に緩みがないこと		○	○	
		配線に損傷がないこと		○	○	

給油・給水一覧表

項　　目	補　給（交　換）時　期	推　　奨　　品	容　量
燃　　料	随時	自動車用無鉛ガソリン	15.0ℓ
エンジンオイル	補給　毎日点検し不足時に補給 交換　初回：20時間 2回目以降：50時間毎	ガソリンエンジンオイル API分類　SE級以上 SAE分類　10W-30	1.4ℓ 1.55ℓ*1
トランスミッションオイル	交換　初回：50時間 2回目以降：500時間毎	ギヤオイル API分類　GL4または5 SAE分類　#80	1.5ℓ
フロントデフオイル（センター）	随時	ギヤオイル API分類　GL4または5 SAE分類　#80	0.5ℓ
フロントナックルオイル（両サイド）	随時	ギヤオイル API分類　GL4または5 SAE分類　#80	0.1ℓ
センターギヤボックスオイル	随時	ギヤオイル API分類　GL4または5 SAE分類　#80	0.2ℓ
ＨＳＴオイル	随時	ガソリンエンジンオイル API分類　SE級以上 SAE分類　10W-30	7.0ℓ
刈刃ケースオイル	随時	ギヤオイル API分類　GL4または5 SAE分類　#80	0.25ℓ
バッテリ液	補給　50時間毎に点検し不足時に補給	蒸留水	－

*1　オイルフィルタカートリッジ交換時

給脂一覧表

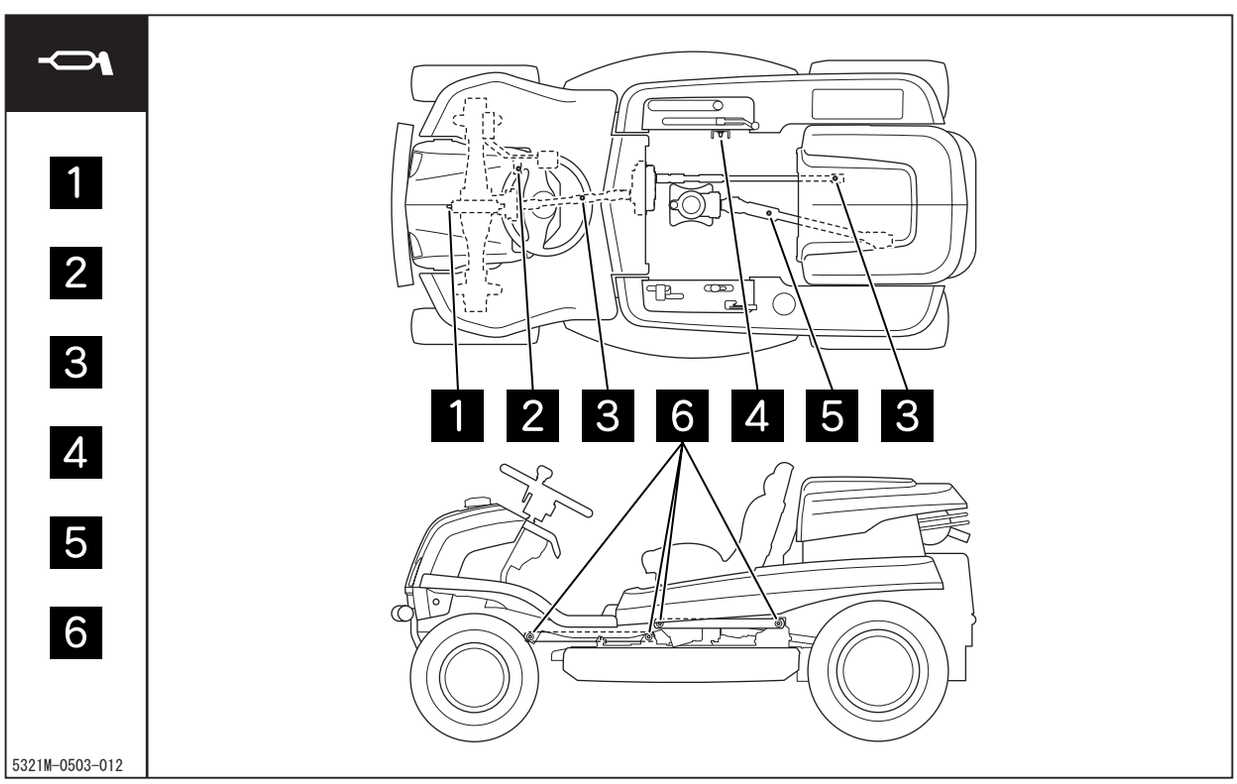
⚠ 注 意

・給脂がおろそかになると、焼き付きや錆び付きの原因となり、作動が円滑に行われなくなるおそれがありますので、定期的に給脂を行ってください。

アドバイス

・手動式のグリースポンプを使用の場合は5～6回突いてください。途中でポンプハンドルが重くなった場合は、ただちに給脂を終了してください。
・エア式のグリースポンプを使用の場合は2～3秒間給脂してください。

	給脂箇所	補給時期	推奨品
1	前車軸中央	半年毎	シャーシグリース
2	走行ペダル支点	半年毎	シャーシグリース
3	プロペラシャフト	半年毎	シャーシグリース
4	刈刃クラッチレバー支点	半年毎	シャーシグリース
5	刈刃ドライブシャフト	半年毎	シャーシグリース
6	刈刃リンク支点	半年毎	シャーシグリース



消耗部品（交換部品）一覧表

⚠ 注　意

・消耗部品の交換時は必ず当社指定部品を使用してください。

項　　目	部品番号	交換インターバル	個数
エンジン			
オイルフィルタカートリッジ	248-65801-00	初回：50時間、2回目以降：200時間毎	1
エアクリーナエレメント	263-32610-A1	200時間毎またはシーズン毎	1
点火プラグ NGK BPR5ES	065-01402-80	50時間毎に清掃し、不具合があれば交換	2
ワイヤ（アクセル）	53210105000	不具合があれば交換	1
ワイヤ（チョーク）	53130112000	不具合があれば交換	1
燃料系統			
ホース（キャブレター燃料ポンプ）	263-68006-B3	2年毎	1
ホース（燃料ポンプー燃料フィルタ）	263-68007-B3	2年毎	1
ホース（燃料フィルターー燃料タンク）	53210308000	2年毎	1
走行装置			
Vベルト SB-32(W400)（走行）	08521300032	不具合があれば交換	1
タイヤ TA 4.00-8（前輪）	34072407000	不具合があれば交換	2
タイヤ 19×8.00-10（後輪）	34152313000	不具合があれば交換	2
チューブ（前輪）	34072408000	不具合があれば交換	2
チューブ（後輪）	37052204000	不具合があれば交換	2
ブレーキライニング（リア）	73014007000	不具合があれば交換	2
ブレーキライニング（フロント）	73064019000	不具合があれば交換	2
ワイヤ（リアブレーキ）	53213321000	不具合があれば交換	1
ワイヤ（フロントブレーキ）	37145121000	不具合があれば交換	1
ワイヤ（デフロック）	37145121000	不具合があれば交換	1
クーリングファン	73061137000	不具合があれば交換	1
刈取装置			
刈刃セット（ひろさき）	Z3214206010	不具合があれば交換	1
刈刃セット	Z3104205010	不具合があれば交換	1
	Z3104205050	不具合があれば交換	5
刈刃セット（一刀斎）	Z3096201010	不具合があれば交換	1
	Z3096201030	不具合があれば交換	3
	Z3096201050	不具合があれば交換	5
	Z3096201100	不具合があれば交換	10

項　　目	部品番号	交換インターバル	個数
刈取装置			
ゴムイタ（フロントスカート中央）	53212116000	不具合があれば交換	1
ゴムイタ（フロントスカート両サイド）	53212121000	不具合があれば交換	2
ゴムイタ（フロントアクスルー刈刃カバー）	53212112000	不具合があれば交換	1
ゴムイタ（フロントアクスル右後）	53212118000	不具合があれば交換	1
ゴムイタ（フロントタイヤ内側）	53212142000	不具合があれば交換	2
ゴムイタ（刈刃カバー後）	53214125000	不具合があれば交換	1
ゴムイタ（刈刃カバー左後）	53214124000	不具合があれば交換	1
Ｖベルト SGLB37（刈刃駆動）	08521600037	不具合があれば交換	2
ブレーキライニング（刈刃）	73054005000	不具合があれば交換	2
ワイヤ（刈刃クラッチ）	53132431000	不具合があれば交換	1
ワイヤ（刈高調節）	53214013000	不具合があれば交換	1
フリーロック（刈高調節）	53214009000	不具合があれば交換	1
刈刃ステー	53214204000	不具合があれば交換	1
刈刃交換工具（TOSHIHARU）	53139004000		
電装品			
バッテリ 38B19R	37053901000	不具合があれば交換	1
ヒューズ 30A（緑・メイン）	09801003002	不具合があれば交換	1
ヒューズ 10A（赤・ライト）	09801001002	不具合があれば交換	1
ライトバルブ（ヘッドランプ）	09808121509	不具合があれば交換	2
ライトバルブ（リアランプ）	09808120348	不具合があれば交換	1
車体装置			
ワイヤ（シート高調節）	53213533000	不具合があれば交換	1
フリーロック（シート高調節）	53213525100	不具合があれば交換	1

カバーの開けかたおよび取り外しかた

⚠ 警　告

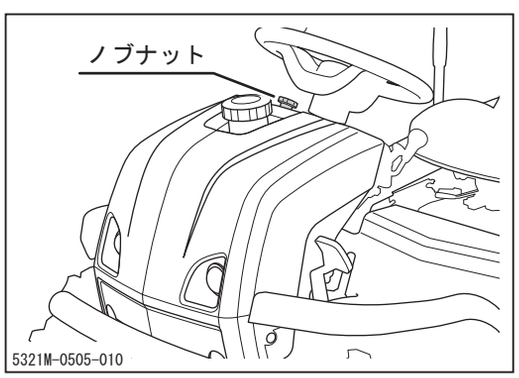
・作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

⚠ 注　意

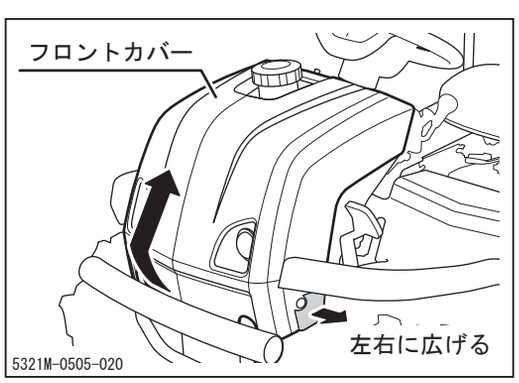
・カバーの開閉時および取り付け・取り外し時に手や指をはさまないように十分注意してください。

・点検および作業を行うために開けたり外したりしたカバーは、作業終了後、必ず元に戻してください。

フロントカバーの取り外しかた

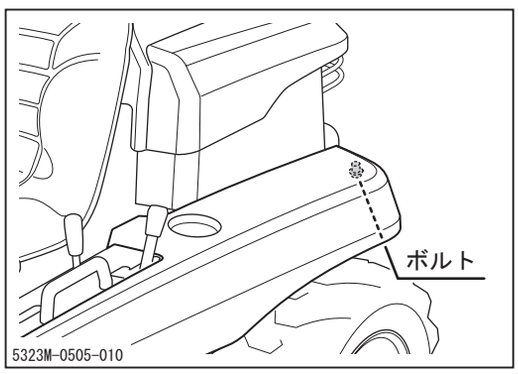


1. ノブナットを取り外します。

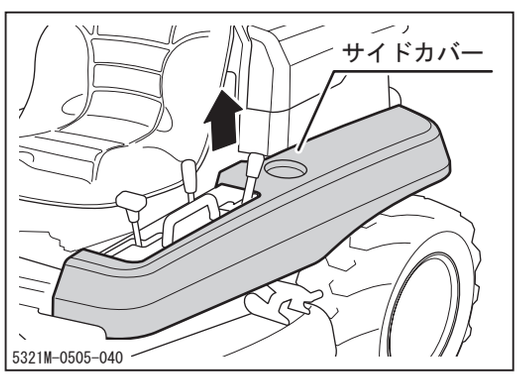


2. 図示部分を左右に広げながらフロントカバーを上に持ち上げ、取り外します。
3. 取り付けるときは左右のツメが確実にはまっていることを確認します。

サイドカバーの取り外しかた

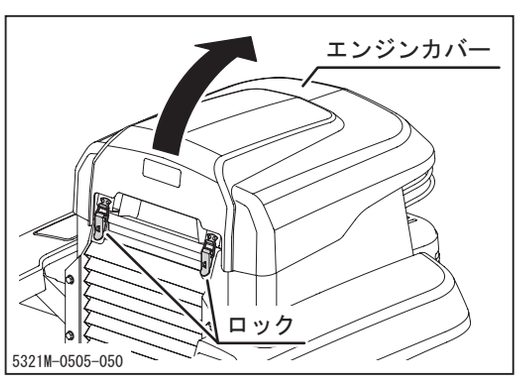


1. ボルトを取り外します。



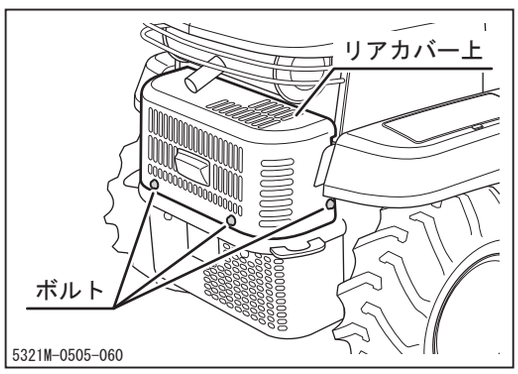
2. サイドカバーを上に持ち上げ、取り外します。

エンジンカバーの開けかた



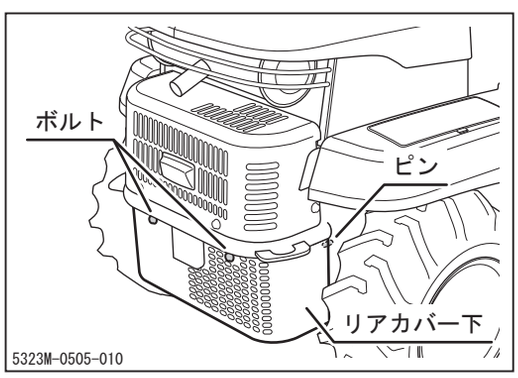
1. 左右のロックを解除します。
2. エンジンカバーを開けます。

リアカバー上の取り外しかた



1. ボルト（4本）を取り外します。
2. リアカバー上を取り外します。

リアカバー下の取り外しかた

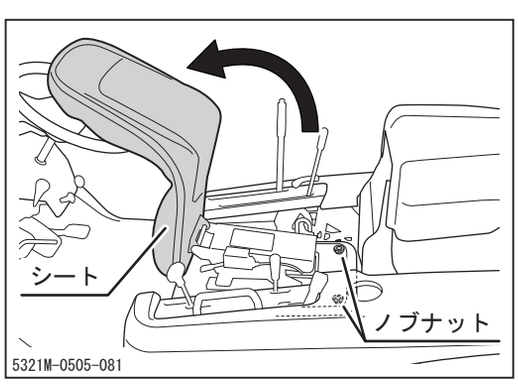


1. ボルト（2本）を取り外します。
2. リアカバー下を取り外します。
3. 取り付けるときはピンをフレームの穴に差し込んでから取り付けます。

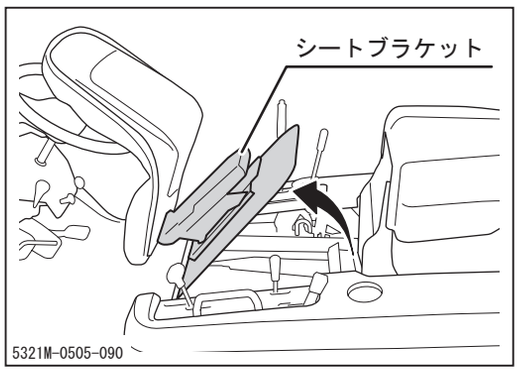
シートブラケットの開けかた

⚠ 注　意

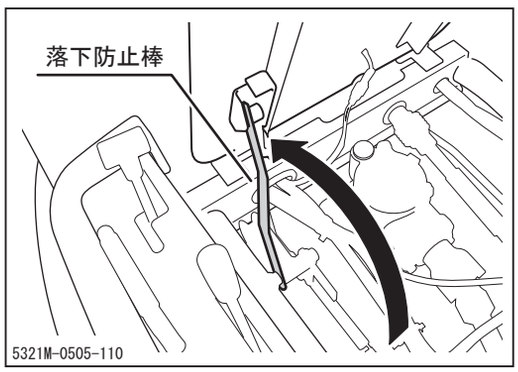
・シートブラケットを開けるときは、シート位置を最後端にしてから開けてください。
シートブラケットとステップが干渉します。



1. シートを持ち上げます。
2. ノブナット（2個）を取り外します。

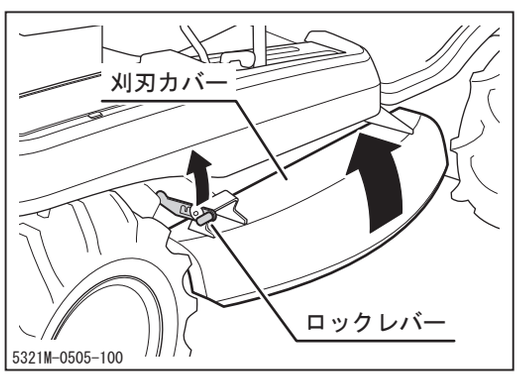


3. シートブラケットを持ち上げます。



4. 落下防止棒で確実に固定します。

刈刃カバーの開けかた



1. ロックレバーを上に上げます。
2. ロックレバーを上げたまま刈刃カバーを持ち上げます。
3. ロックレバーを戻し、刈刃カバーをロックします。

アドバイス

・刈高調整レバーが「移動」のときは、刈刃カバーは全開になりません。刈刃カバーを全開にするときは、刈高調整レバーを「100」より下にしてください。

エンジン

⚠ 警　告

・点検および作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

・エンジン停止直後はエンジン各部およびエンジンオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、エンジンが冷えてから作業を行ってください。

・エンジンの整備時は火気を近づけないでください。

・廃油は法令に従って適切な処理をしてください。

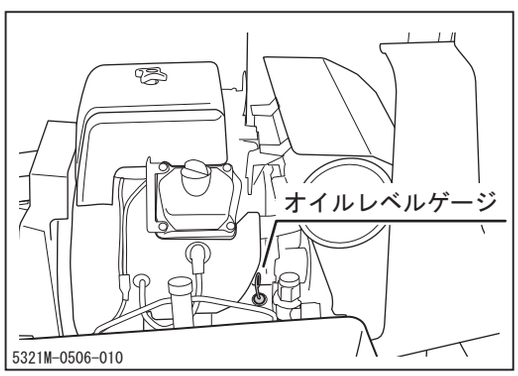
エンジンオイルの点検・補給・交換

⚠ 注　意

・オイルの補給がおろそかになると、エンジン故障の原因となりますので、指定のオイルを過不足なく補給してください。

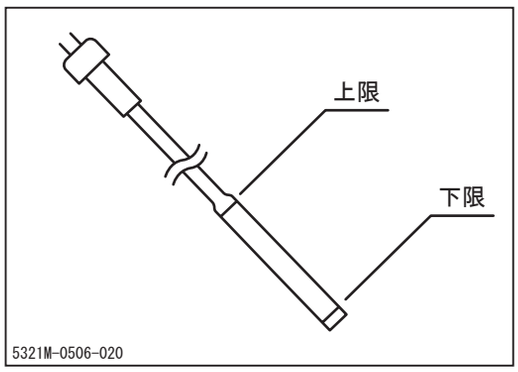
☝アドバイス

・オイル量はエンジン始動前かエンジン停止後約10分たってから行ってください。エンジン停止直後はエンジン各部にオイルが残留しており、正確なオイル量が点検できません。
・点検および作業時は付属の「エンジン取扱説明書」も参照してください。
・指定オイル、規定オイル量：☞39ページ

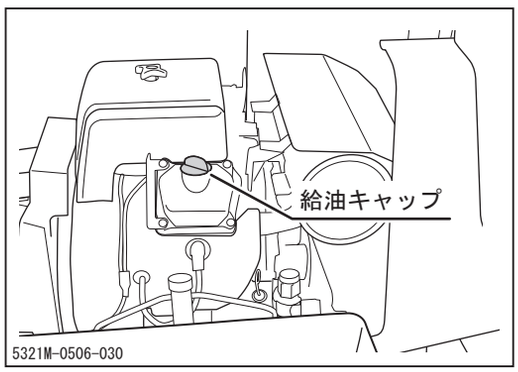


点検

1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. エンジンカバーを開けます。
3. オイルレベルゲージを取り外し、オイルを拭き取ります。
4. オイルレベルゲージを取り付け、再び取り外します。

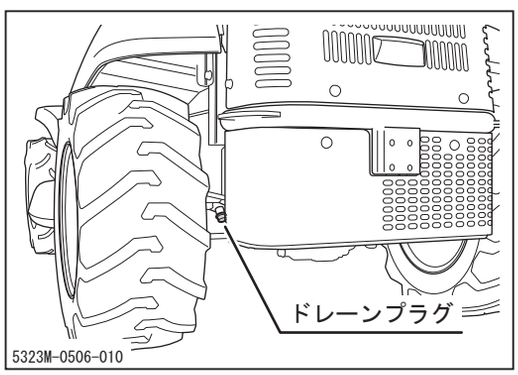


5. オイル量を目視点検し、オイルレベルゲージの上限と下限の間にあることを確認します。下限より少ない場合は補給します。
6. オイルの汚れ、粘度を目視点検し、汚れがひどい場合、粘度が不良の場合は交換します。
7. オイルレベルゲージを取り付けます。
8. エンジンカバーを閉めます。



補給

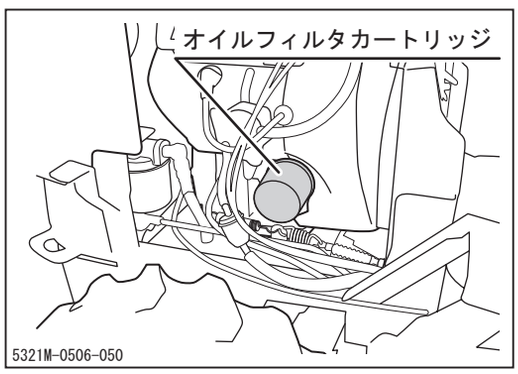
1. エンジンカバーを開けます。
2. 給油キャップを取り外します。
3. 給油口より指定のオイルを補給します。
4. オイル量を点検し、規定量入っていることを確認します。
5. 給油キャップを取り付けます。
6. エンジンカバーを閉めます。



交換

1. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
2. エンジンカバーを開けます。
3. 給油キャップを取り外します。
4. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
5. ドレーンプラグを取り付けます。
6. オイルを規定量補給します。
7. オイル量を点検し、規定量入っていることを確認します。
8. 給油キャップを取り付けます。
9. エンジンカバーを閉めます。

オイルフィルタカートリッジの交換

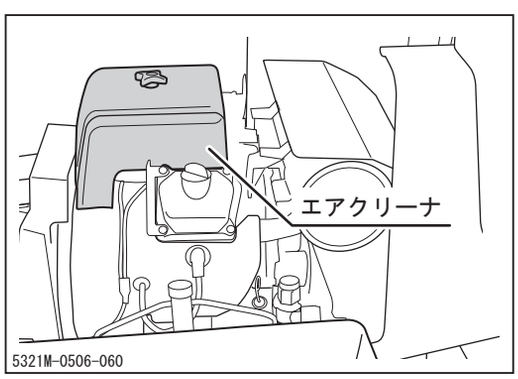


1. エンジンカバーを開けます。
2. 右サイドカバーを取り外します。
3. エンジンオイルを排出します。
4. 付属の**「エンジン取扱説明書」**の指示に従って、オイルフィルタカートリッジの交換を行います。
5. エンジンオイルを補給します。
6. 右サイドカバーを取り付けます。
7. エンジンカバーを閉めます。

エアクリーナの清掃・交換

⚠ 注　意

・エレメントの清掃は毎日行ってください。エレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、寿命低下を引き起こします。

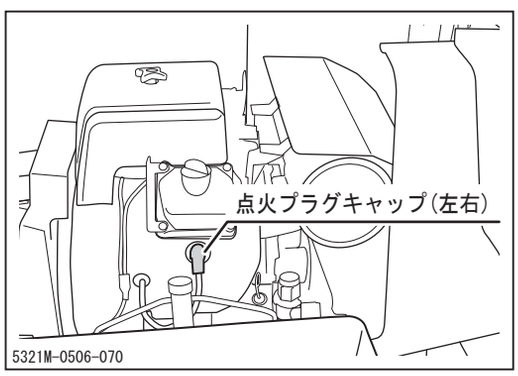


1. エンジンカバーを開けます。
2. 付属の**「エンジン取扱説明書」**の指示に従って、エアクリーナエレメントの清掃・交換を行います。
3. エンジンカバーを閉めます。

点火プラグの点検・清掃・交換

⚠ 注　意

・点火プラグキャップを取り外すときはキャップを持って取り外してください。コードを引っ張ると断線するおそれがあります。



1. エンジンカバーを開けます。
2. 点火プラグキャップを取り外します。
3. 付属の**「エンジン工具」**または市販のプラグレンチで点火プラグを取り外します。
4. 付属の**「エンジン取扱説明書」**の指示に従って、点火プラグの点検・清掃・交換を行います。
5. 点火プラグを取り付けます。
6. 点火プラグキャップを取り付けます。
7. エンジンカバーを閉めます。

走行装置

⚠ 警　告

・点検および作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

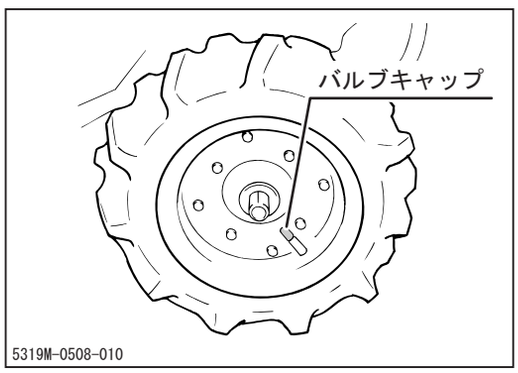
・エンジン停止直後は各部およびオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。

・廃油は法令に従って適切な処理をしてください。

タイヤ空気圧の点検・調整

⚠ 注　意

・タイヤは必ず指定の空気圧で使用してください。異常磨耗や損傷のおそれがあります。



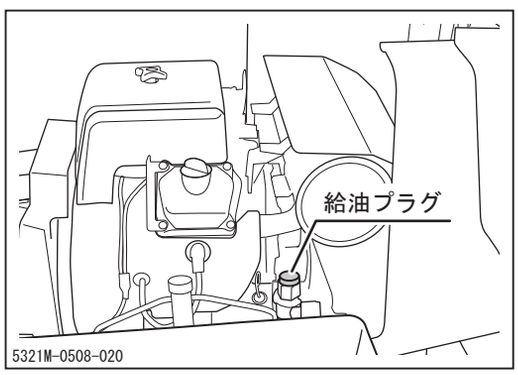
1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. バルブキャップを取り外します。
3. タイヤの空気圧を点検し、標準値でない場合は調整します。
4. バルブキャップを取り付けます。

	タイヤサイズ	空気圧 KPa(kgf/cm²)
前　　輪	TA 4.00-8 (2PR)	110(1.1)
後　　輪	19×8.00-10 (4PR)	220(2.2)

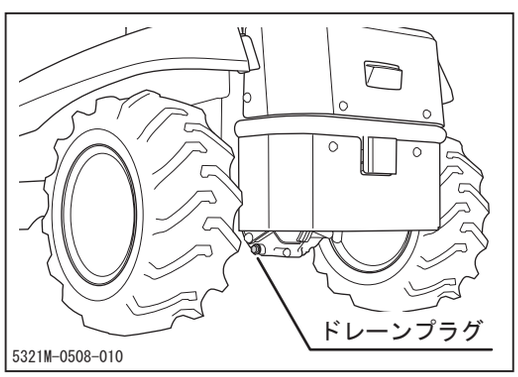
トランスミッションオイルの交換

アドバイス

・指定オイル、規定オイル量：☞39ページ



1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
3. エンジンカバーを開けます。
4. 給油プラグを取り外します。

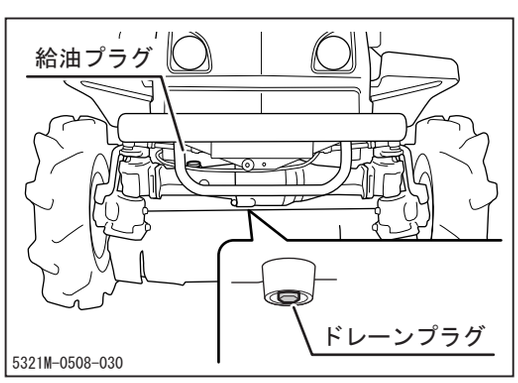


5. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
6. ドレーンプラグを取り付けます。
7. 給油口より指定のオイルを規定量補給します。
8. 給油プラグを取り付けます。
9. エンジンカバーを閉めます。

フロントデフオイルの交換

アドバイス

・指定オイル、規定オイル量：☞39ページ

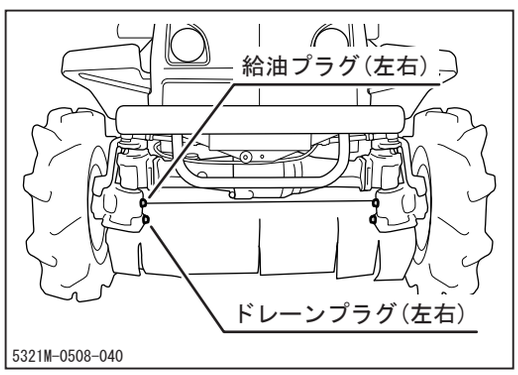


1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
3. 給油プラグを取り外します。
4. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
5. ドレーンプラグを取り付けます。
6. 給油口より指定のオイルを規定量補給します。
7. 給油プラグを取り付けます。

フロントナックルオイルの交換

アドバイス

・指定オイル、規定オイル量：☞39ページ

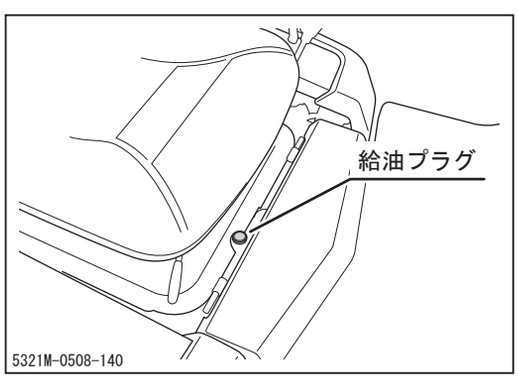


1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
3. 給油プラグを取り外します。
4. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
5. ドレーンプラグを取り付けます。
6. 給油口より指定のオイルを規定量補給します。
7. 給油プラグを取り付けます。

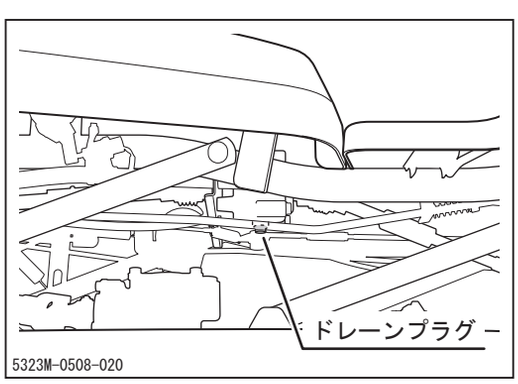
センターギヤボックスオイルの交換

アドバイス

・指定オイル、規定オイル量：☞39ページ



1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
3. シートブラケットを開けます。
4. 給油プラグを取り外します。

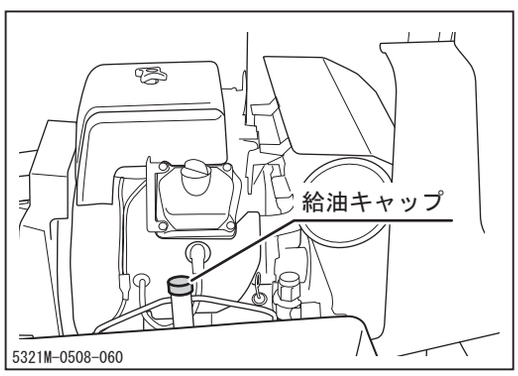


5. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
6. ドレーンプラグを取り付けます。
7. 給油口より指定のオイルを規定量補給します。
8. 給油プラグを取り付けます。

ＨＳＴオイルの点検・補給・交換

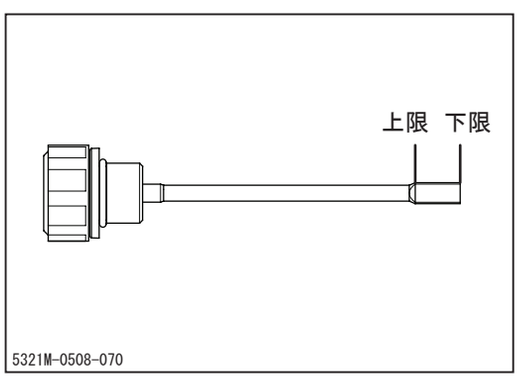
アドバイス

・オイル量の点検はエンジン始動前かＨＳＴオイルが十分冷えてから行ってください。エンジン停止直後はオイルが膨張しており、正確なオイル量が点検できません。
・指定オイル、規定オイル量：☞39ページ

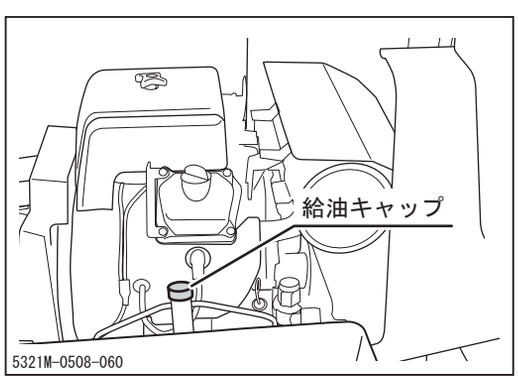


点検

1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. エンジンカバーを開けます。
3. 給油キャップを取り外し、オイルを拭き取ります。
4. 給油キャップを取り付け、最後までねじ込みます。
5. 給油キャップを再び取り外します。

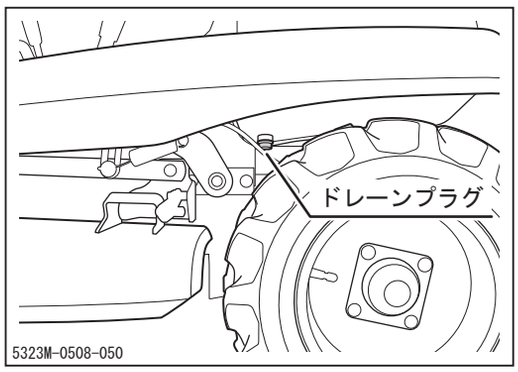


6. オイル量を目視点検し、オイルレベルゲージの上限と下限の間にあることを確認します。下限より少ない場合は補給します。
7. オイルの汚れ、粘度を目視点検し、汚れがひどい場合、粘度が不良の場合は交換します。
8. 給油キャップを確実に取り付けます。
9. エンジンカバーを閉めます。



補給

1. エンジンカバーを開けます。
2. 給油キャップを取り外します。
3. 給油口より指定のオイルを補給します。
4. オイル量を点検し、規定量入っていることを確認します。
5. 給油キャップを確実に取り付けます。
6. エンジンカバーを閉めます。



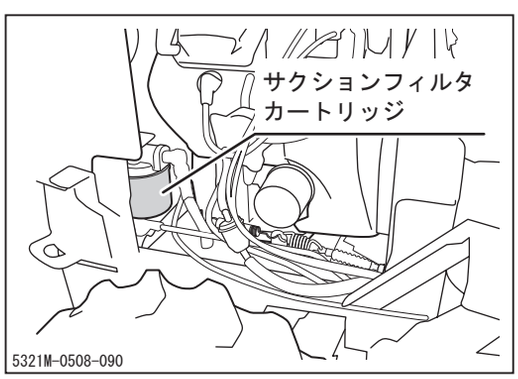
交換

1. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
2. エンジンカバーを開けます。
3. 給油キャップを取り外します。
4. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
5. ドレーンプラグを取り付けます。
6. オイルを規定量補給します。
7. オイル量を点検し、規定量入っていることを確認します。
8. 給油キャップを取り付けます。
9. エンジンカバーを閉めます。

サクションフィルタの交換

アドバイス

・ＨＳＴオイルの交換時はサクションフィルタも同時に交換してください。

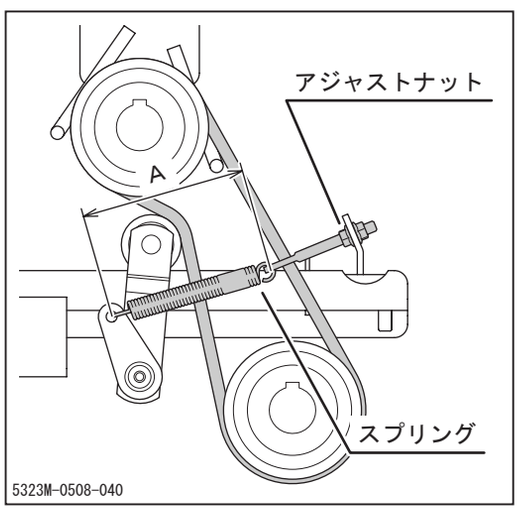


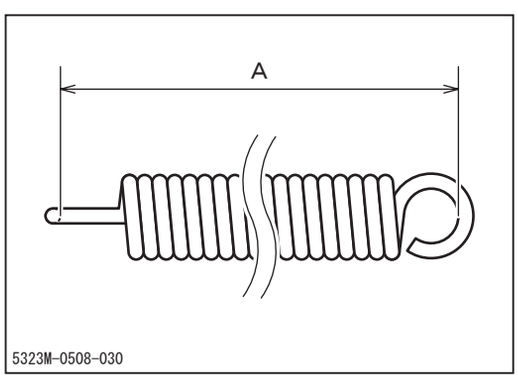
1. エンジンカバーを開けます。
2. 右サイドカバーを取り外します。
3. サクションフィルタカートリッジを取り外します。
4. 新品のサクションフィルタカートリッジのシール部にきれいなエンジンオイルを薄く塗布します。
5. サクションフィルタカートリッジを取り付け、手でいっぱいに締め付けます。
6. 右サイドカバーを取り付けます。
7. エンジンカバーを閉めます。

走行Ｖベルトの点検・調整

⚠ 注　意

・ベルトの張りが弱いとベルトがスリップしベルトの寿命が短くなります。



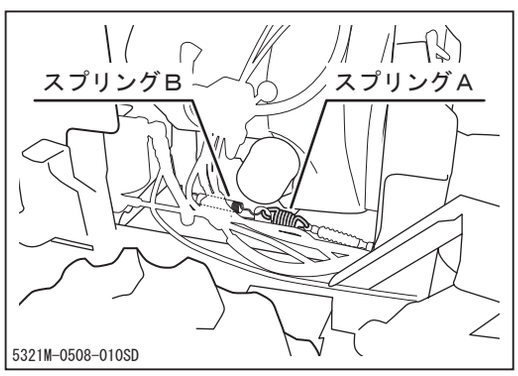


1. リアカバー上を取り外します。
2. Ｖベルトの張りを点検します。スプリングのフック内寸Ａが135±3㎜の範囲にあるか点検します。適正でない場合にはアジャストナットで調整します。
3. Ｖベルトに損傷がないか点検します。損傷がある場合は交換します。交換は販売店へ依頼してください。
4. リアカバー上を取り付けます。

ブレーキの点検

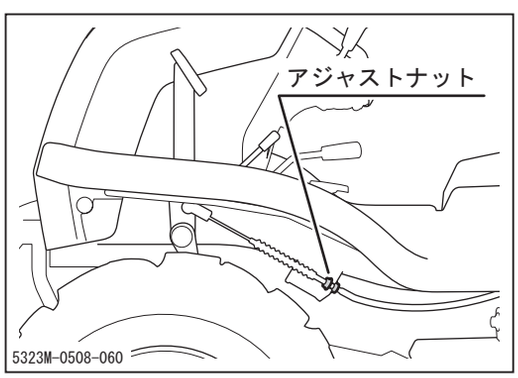
⚠ 警　告

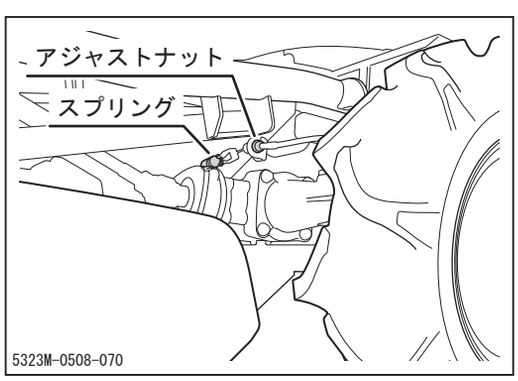
・ブレーキの効きが悪くなった場合は、すぐに点検・調整をしてください。



リアブレーキ

1. ブレーキペダルをロックします。
2. スプリングＡの伸びが約3㎜であるか点検します。適正でない場合にはアジャストナットで調整します。調整は販売店に依頼してください。





フロントブレーキ

1. ブレーキペダルをロックします。
2. スプリングの伸びが約3～5㎜であるか点検します。適正でない場合にはアジャストナットで調整します。調整は販売店に依頼してください。

刈取装置

⚠ 警 告

・点検および作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

・エンジン停止直後は各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。

刈刃の点検・交換

⚠ 注 意

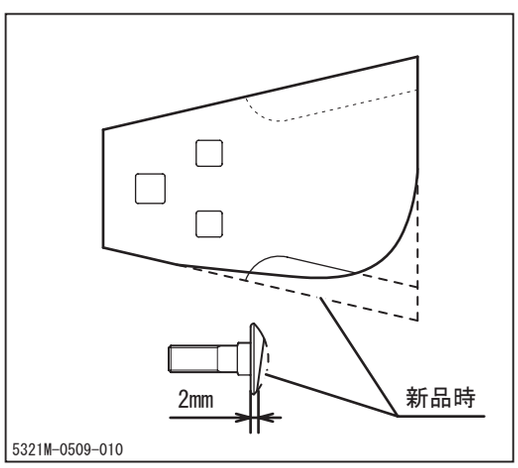
・刈刃が折損した場合は、すぐに新しい刈刃と交換してください。回転バランスがくずれ、異常振動を発生し、故障の原因となります。

・刈刃を交換する場合は、全数交換をしてください。回転バランスがくずれ、異常振動を発生し、故障の原因となります。

・刈刃を交換する場合は、カクネマルアタマボルトも新品に交換してください。

・刈刃の取扱時は厚い手袋を着用するか、厚い布で刃先を包んで慎重に取り扱ってください。

・ナットの取付・取外時は刈刃ステーを持って作業をしてください。刈刃を持つと怪我をするおそれがあります。



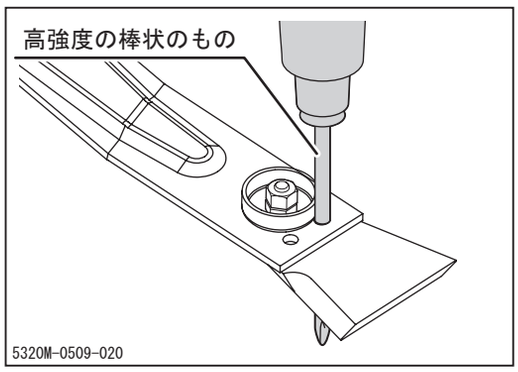
点検

1. 刈刃カバーを開けます。
2. 刈刃、ボルトを点検し、磨耗や変形、破損がある場合は新品に交換します。脱落がある場合は新品を取り付けます。

アドバイス

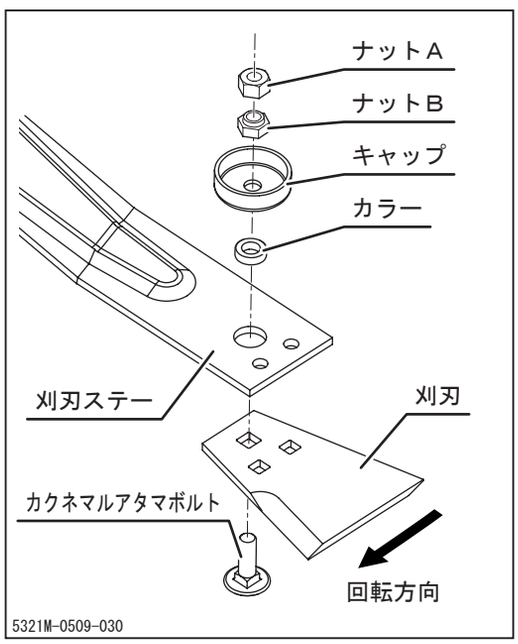
・磨耗限度：左図実線部まで

3. 刈刃カバーを閉めます。



交換

1. 刈刃カバーを開けます。
2. 高強度の棒状のもの（ドライバー等）を使用して刈刃を固定します。



3. ナットA・ナットBの順に外し、刈刃を取り外します。
4. 刈刃ステーの下に新しい刈刃または裏返した刈刃を重ねて、下側からカクネマルアタマボルトを通します。
5. カラー・キャップをカクネマルアタマボルトに通します。
6. 高強度の棒状のもの（ドライバー等）を使用して刈刃を固定します。
7. ナットBを取り付け、規定トルクにて締め付けます。

アドバイス

・締め付け規定トルク
M12：44.1～53.9N･m（450～550kgf･cm）

8. ナットAを取り付けます。手締めして回らなくなった後、約１回転締め付けます。

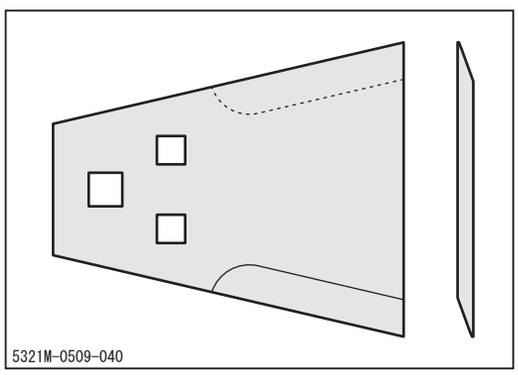
アドバイス

・ナットAは上記の方法で十分なロック効果が得られます。

9. 刈刃カバーを閉めます

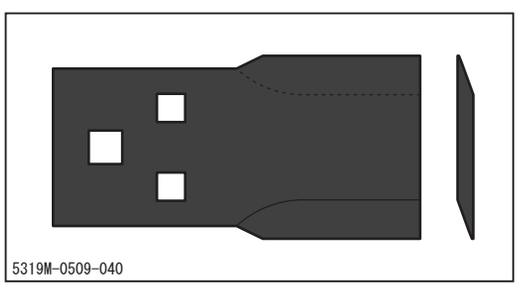
交換用刈刃の種類

目的や使用状況に合わせて3種類の専用刈刃を用意しています。



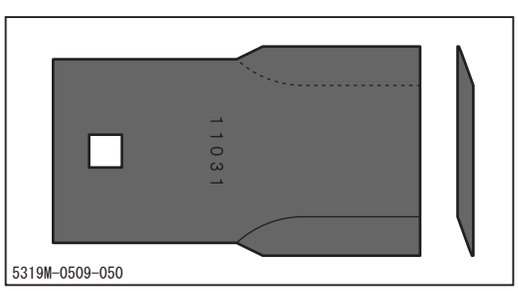
銀（ひろさき）

- 標準装備品の刈刃。
- 刈刃の面積を広くし、耐久性を向上した刈刃。
- フリー刃、固定刃（別売りのボルトを使用）のどちらにも使用可能



黒

- フリー刃、固定刃（別売りのボルトを使用）のどちらにも使用可能で汎用性の高い刈刃。
- 固定刃にしてやわらかい草を刈るのに適している。



赤（一刀斎）

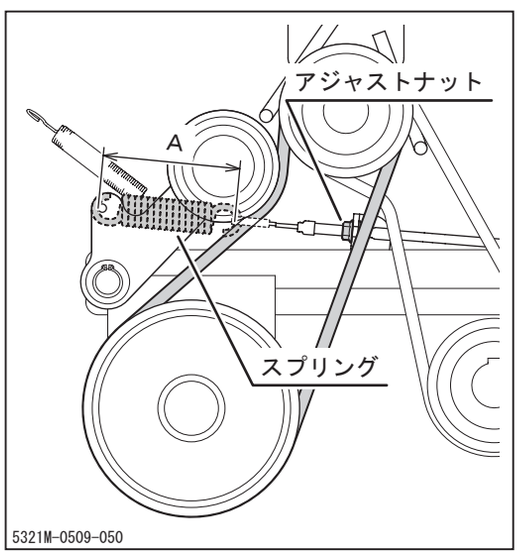
- 黒を強化し、耐久性を向上した刈刃。
- 交換の際は刈刃交換工具（別売）を使用してください。刈刃交換工具については販売店に問い合わせてください。

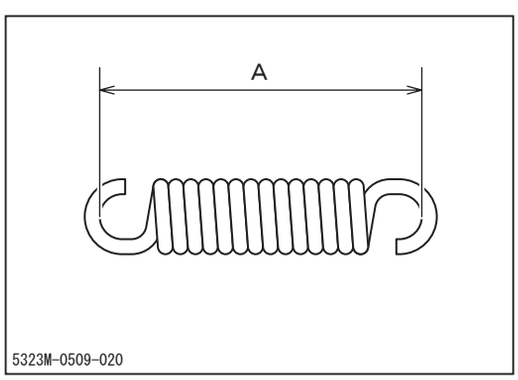
	黒	赤（一刀斎）	銀（ひろさき）
耐　久　性	低 ←	→	高

刈刃Ｖベルトの点検・調整

⚠ 注　意

・ベルトの張りが弱いとベルトがスリップし、作業能力が低下します。また、ベルトの寿命が短くなります。





1. リアカバー上を取り外します。
2. エンジンカバーを開けます。
3. 刈高さ調節レバーを「180」にします。
4. 刈刃クラッチレバーを「入」にします。
5. Ｖベルトの張りを点検します。スプリングのフック内寸Ａが115±1㎜の範囲にあるか点検します。適正でない場合にはアジャストナットで調整します。
6. Ｖベルトに損傷がないか点検します。損傷がある場合は交換します。交換は販売店へ依頼してください。
7. 刈刃クラッチレバーを「切」にします。
8. 刈高さ調節レバーを「移動」にします。
9. エンジンカバーを閉めます。
10. リアカバー上を取り付けます。

刈刃ブレーキの点検・調整

⚠ 危　険

・刈刃の回転中に刈刃カバーの下に手足を入れないでください。

⚠ 警　告

・点検時は本製品の周辺に人を近づけないでください。

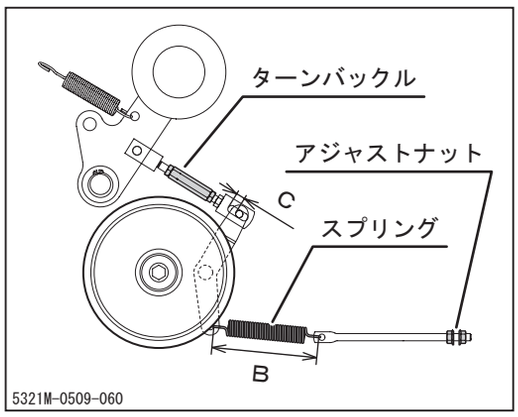
・点検は必ず乗車して行ってください。

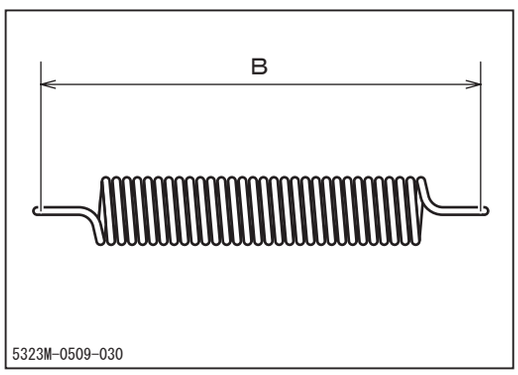
・刈刃カバーを開けたまま点検を行わないでください。小石等の異物の飛散により周囲へ被害を及ぼすおそれがあります。

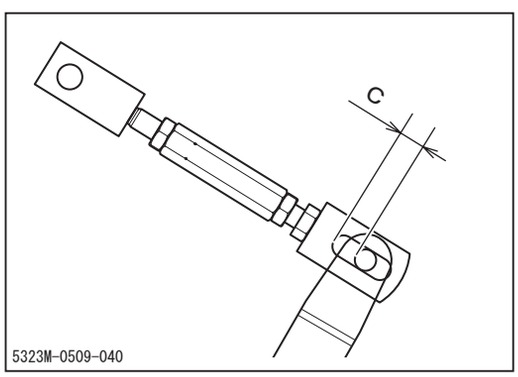
・刈刃ブレーキの効きが悪くなってきた時はすぐに刈刃ブレーキの点検を行ってください。

点検

1. エンジンを始動します。
2. アクセルレバーを「（高速）」にして、エンジンの回転数を上げます。
3. 刈高さ調節レバーを「180」にします。
4. 刈刃クラッチレバーを「入」にして、刈刃を回転します。
5. 刈刃クラッチレバーを「切」にして、刈刃が5秒以内に停止することを確認します。停止しない場合は調整します。
6. 刈高さ調節レバーを「移動」にします。
7. アクセルレバーを「（低速）」にして、エンジンの回転数を下げます。
8. 車両を駐車し、エンジンを停止します。







調整

1. リアカバー上、リアカバー下を取り外します。
2. 刈刃クラッチレバーが「切」の状態でスプリングのフック内寸Ｂが約106㎜になるようにアジャストナットで調整します。
3. 刈刃クラッチレバーが「切」の状態でＣ部の遊びが3～5㎜になるようにターンバックルを調整します。
4. リアカバー上、リアカバー下を取り付けます。
5. 再度点検します。刈刃が5秒以内で停止しない場合は販売店に点検を依頼してください。

電装品

⚠ 警 告

・点検および作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

・ぬれた手で作業を行わないでください。感電のおそれがあります。

バッテリ液の点検・補給・充電

⚠ 警 告

・バッテリ液量が「LOWER LEVEL」以下になったままで使用または充電をしないでください。バッテリの寿命を著しく縮めます。また、バッテリが爆発するおそれがあります。

・バッテリ液（希硫酸）が衣服や皮膚に付着した場合は、すぐに多量の水で洗い流してください。目に入った場合にはすぐに多量の水で洗い流し、医師の診断を受けてください。

・バッテリに火気を近づけないでください。

・バッテリの電極に触れないでください。感電のおそれがあります。

・バッテリの充電は車両から取り外して行ってください。

・バッテリの清掃は湿った布で行ってください。乾いた布で清掃すると、静電気で引火爆発するおそれがあります。

⚠ 注 意

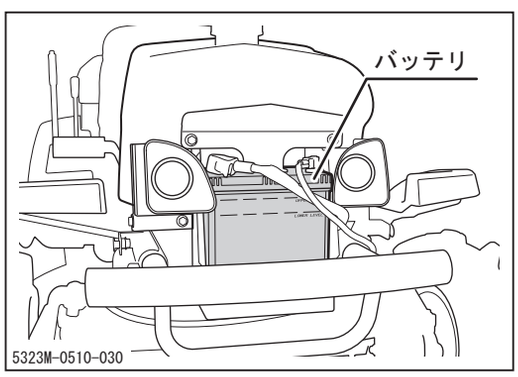
・バッテリ液を補給する時は、バッテリ液量が「UPPER LEVEL」以上になるまで補給をしないでください。バッテリ液がもれて塗装面が傷ついたり、部品が腐食したりするおそれがあります。

・バッテリを充電するときは、使用する充電器の取扱説明書の指示に従ってください。

⚠ 注　意

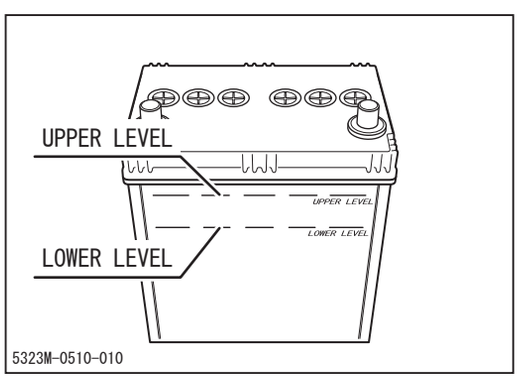
・バッテリ端子を取り外すときは（－）端子から取り外し、取り付けるときは（＋）端子から取り付けてください。（＋）端子と車体の間に工具等が接触するとショートします。

・バッテリ端子をバッテリに取り付けるときには（＋）と（－）を間違えないでください。また、端子はしっかりと取り付け、配線がまわりに接触しないようにしてください。

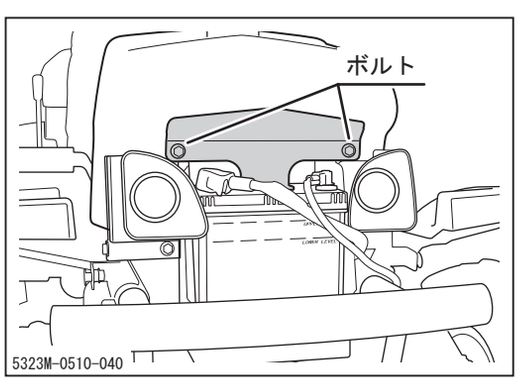


点検

1. 車両を水平な場所に駐車します。
2. フロントカバーを取り外します。

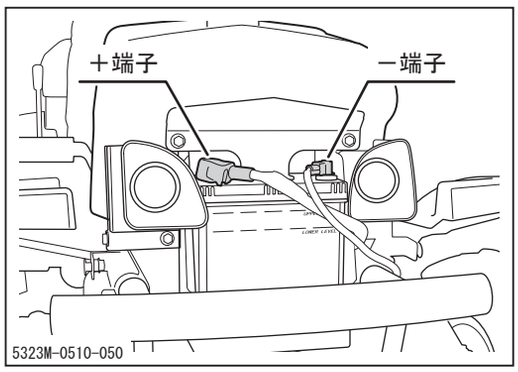


3. バッテリ液量が「UPPER LEVEL」（以下U.L）と「LOWER LEVEL」（以下L.L）の間にあることを確認します。
4. バッテリ液量が「L.L」に近い場合は補給します。
5. フロントカバーを取り付けます。

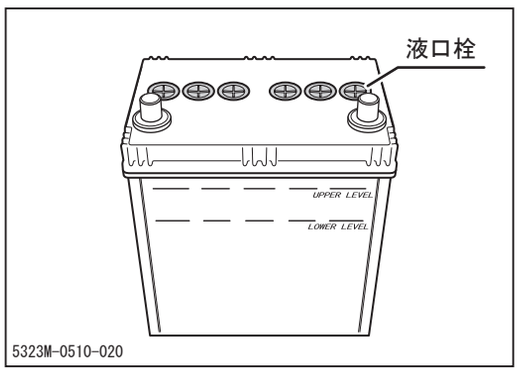


補給

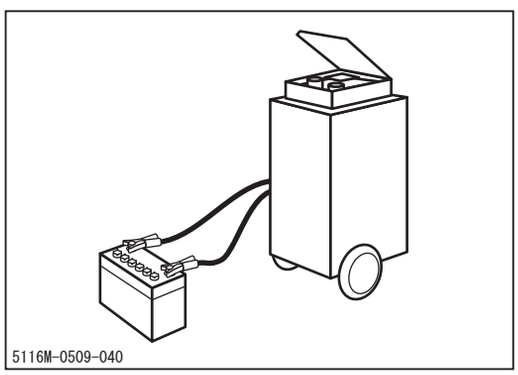
1. フロントカバーを取り外します。
2. ボルト（2本）を取り外し、バッテリ押さえを取り外します。



3. バッテリの（－）端子を取り外します。
4. バッテリの（＋）端子を取り外します。
5. バッテリを取り外します。



6. 液口栓を取り外します。
7. 蒸留水を「U.L」まで補給します。
8. 液口栓を取り付けます。
9. バッテリを取り付けます。
10. バッテリの（＋）端子を取り付けます。
11. バッテリの（－）端子を取り付けます。
12. バッテリ押さえを取り付けます。
13. フロントカバーを取り付けます。



充電

1. フロントカバーを取り外します。
2. バッテリを取り外します。
3. 充電器の取扱説明書に従い、バッテリを充電します。
4. 充電が終了したらバッテリを車両に取り付けます。
5. フロントカバーを取り付けます。

ヒューズの点検・交換

⚠ 注　意

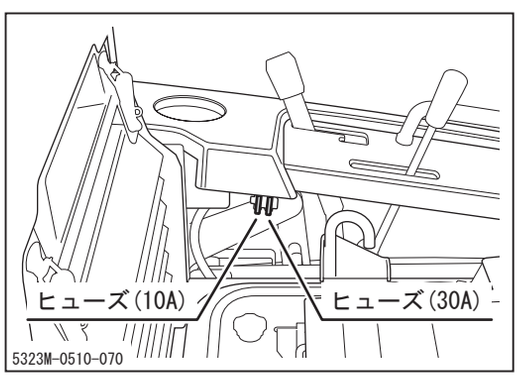
・ヒューズが切れているときは、原因を調査し、修理をしてから交換してください。

・ヒューズは指定容量のものと交換してください。電装品が故障するおそれがあります。

アドバイス

・メイン：30A、ライト：10A

・指定ヒューズ：☞42ページ



1. シートを上げます。
2. ヒューズを取り外し、ヒューズが切れていないかをチェックします。切れている場合にはヒューズを交換します。
3. ヒューズを取り付けます。
4. シートを戻します。

ライトバルブの交換

⚠ 注 意

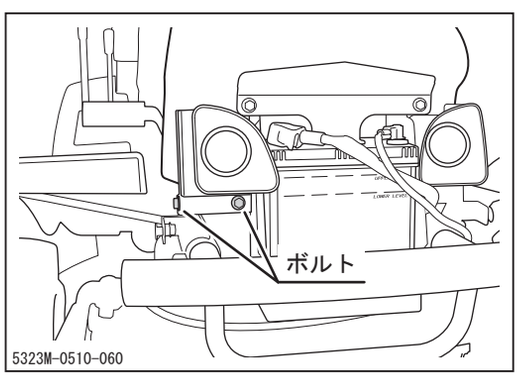
・ライトバルブが切れた場合はすぐに新品と交換してください

・ライトバルブは指定のものと交換してください。電装品が故障するおそれがあります。

・ライトバルブを素手で触らないでください。バルブの寿命が縮まるおそれがあります。

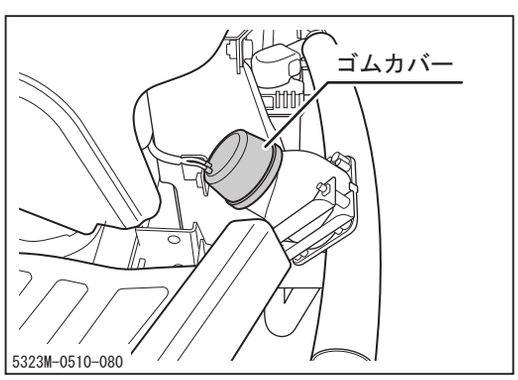
アドバイス

・指定バルブ：☞42ページ

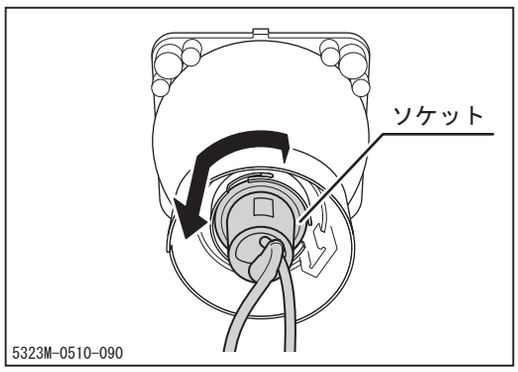


ヘッドランプ

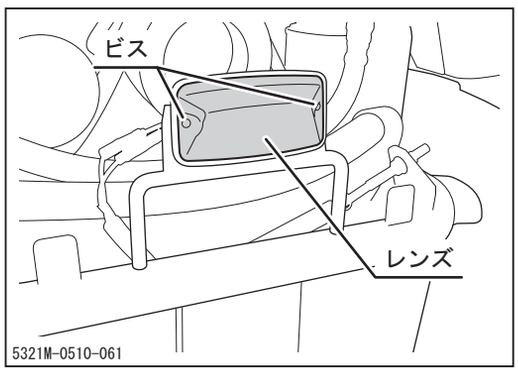
1. フロントカバーを取り外します。
2. ボルト（2本）を取り外し、ライトユニットを取り外します。



3. ゴムカバーを取り外します。

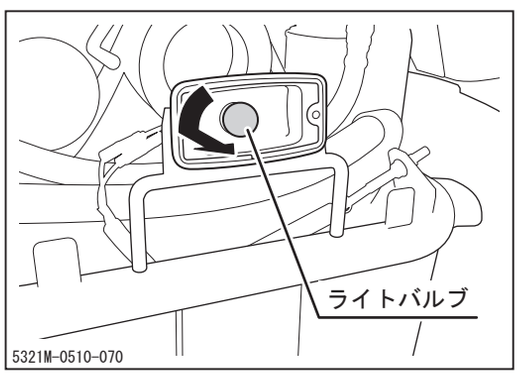


4. ソケットを取り外します。
5. ライトバルブを新品と交換します。
6. ソケット、ゴムカバーを取り付けます。
7. ライトユニットを取り付けます。
8. フロントカバーを取り付けます。



リアランプ

1. リアカバー上を取り外します。
2. ビス(2ケ所)を取り外し、レンズを取り外します。



3. ライトバルブを新品と交換します。
4. レンズを取り付けます。
5. リアカバー上を取り付けます。

使用後のお手入れ

刈取装置の清掃

⚠ 危　険

・刈刃の回転中に刈刃カバーの下に手足を入れないでください。

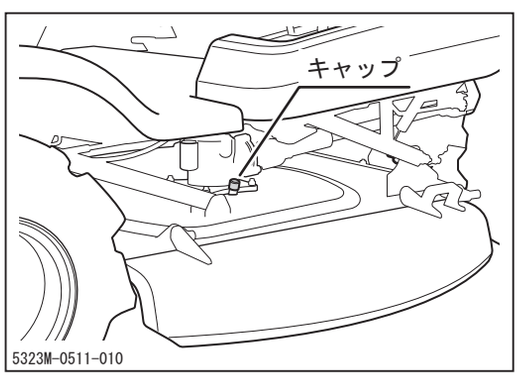
⚠ 警　告

・作業時は本製品の周辺に人を近づけないでください。

・作業は必ず乗車して行ってください。

・刈刃カバーを開けたまま清掃を行わないでください。小石等の異物の飛散により周囲へ被害を及ぼすおそれがあります。

・刈刃クラッチは作業直前に「入」にし、作業時以外は必ず「切」にしてください。



1. 車両を駐車します。
2. 刈高さ調節レバーを「50」にします。

アドバイス

・刈高さを低くしすぎると刈刃と地面が接触するおそれがあります。

3. キャップを取り外し、接続部にホースを取り付け、水を流します。
4. エンジンを始動します。
5. アクセルレバーを「🐇（高速）」にして、エンジンの回転数を上げます。
6. 刈刃クラッチを「入」にして、刈刃を回転し、刈取装置内部を清掃します。
7. 清掃が終わったら刈刃クラッチを「切」にして、刈刃を停止します。
8. アクセルレバーを「🐢（低速）」にして、エンジンの回転数を下げます。
9. エンジンを停止します。

10. 水を止め、ホースを取り外します。
11. キャップを取り付けます。
12. 刈高さ調節レバーを「移動」にします。

通常使用後のお手入れ

⚠ 警　告

・使用後は、車両に堆積した草等をきれいに取り除いてください。火災のおそれがあります。

⚠ 注　意

・エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。

1. 車両に堆積した草や付着した泥等を取り除きます。
2. 屋外に保管する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

寒冷期使用後のお手入れ

⚠ 注　意

・エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。

・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。

・凍結して運転不能となった場合は無理に動かさないでください。

1. 車両に堆積した草や付着した泥等を取り除きます。
2. コンクリートか硬い乾燥した地面または角材の上に駐車します。
3. 屋外に保管する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

長期保管のしかた

⚠ 警 告

・火気のある場所に格納しないでください。火災のおそれがあります。

⚠ 注 意

・エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。

・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。

・湿気やほこりの多い場所に格納しないでください。

1. 車両を駐車します。
2. 車両に堆積した草や付着した泥等を取り除きます。
3. **「定期点検表」**（☞36ページ）に従って各箇所の点検を行い、不具合があれば整備します。
4. 鋼板部分を油のしみた布で清掃し、給脂箇所に給脂します。
5. エンジンオイルを交換します。
6. エアクリーナエレメントを清掃します。
7. 市販のポンプ等を使用して燃料タンク内の燃料を抜き取り、燃料切れで停止するまでエンジンを運転します。
8. 車両からバッテリを取り外し、バッテリ液の点検・補給・充電を行います。
9. エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

アドバイス

・バッテリは使用しなくても放電してしまいます。約6ヶ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電するとバッテリを長持ちさせることができます。
・エンジンの長期保管の詳細については付属のエンジン取扱説明書を参照してください。

不具合診断表

・不具合と考えられる現象が起きた場合は本製品の使用を停止し、下記の不具合診断表を参照して適切な処置をとってください。不具合診断表に記載されていない不具合が発生した場合や、適切な処置をとっても不具合が解消されない場合は、販売店（当社営業所）へ連絡してください。

・下記の処置内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない処置内容については販売店（当社営業所）へ依頼してください。

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
エンジン関連	エンジンがかからないまたはかかりにくい	燃料切れ	→補給する	16ページ
		燃料の吸い込みすぎ	→時間をおいて始動する	
		バッテリの容量不足	→バッテリ液を補給する →バッテリを充電する →バッテリを交換する	64ページ 64ページ
		バッテリ端子の外れまたは断線	→接続または修理する	
		エンジンオイルの不足または品質不良	→補給または交換する	47ページ
		点火プラグの汚れ等による着火不良	→清掃または交換する	50ページ
		その他（上記以外）	→**「始動のしかた」**の手順に従って再始動を試み、始動不可能の場合は販売店へお問い合わせください	19ページ
	すぐにエンストする	燃料切れ	→補給する	16ページ
		チョークノブの戻し忘れ	→チョークノブを戻す	
	エンジンが突然停止する	燃料切れ	→補給する	16ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	アイドリング不良（エンジン回転にムラがある）	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	49ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	

6 不具合発生時の処置

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
エンジン関連	出力または加速不足	燃料不良	→交換する	
		エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	49ページ
		走行Vベルトの緩み	→調整する	56ページ
		過負荷	→負荷を減らす	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	エンジンまたはエンジン付近から異音または振動がする		→販売店へお問い合わせください	
	エンジンオイルの消費が早い		→販売店へお問い合わせください	
	オーバーヒートする	エンジンオイルの不足	→補給する	47ページ
		ローテイティングスクリーン、冷却フィンの目詰まり	→清掃する	
	燃料の消費が早い	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	49ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	黒煙が多量に出る（排気状態の不良）	チョークノブの戻し忘れ	→チョークノブを戻す	
		エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	49ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	白煙が多量に出る（排気状態の不良）	燃料不良	→交換する	
		エンジンオイルが入り過ぎている	→点検後オイル量を調整する	47ページ
		エンジンオイルの粘度不適正	→適正なオイルと交換する	47ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
走行装置関連	走行レバーを動かしても車両が動かない	ＨＳＴオイルの不足	→補給する	54ページ
		駐車ブレーキが効いている	→駐車ブレーキを解除する	
		走行Vベルトの緩み	→調整する	56ページ
		その他（上記以外）	→**「運転のしかた」**の手順に従って運転を試み、走行不可能の場合は販売店へお問い合わせください	22ページ
	走行レバーを中立にしても車両が動く	ＨＳＴの中立が狂っている	→販売店へお問い合わせください	

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
走行装置関連	ギヤ抜けする	ギヤが完全に入っていない	→ギヤを確実に入れる	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	旋回が円滑に行えない	タイヤ空気圧の調整不良	→調整する	51ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	直進性が悪い	タイロッドの調整不良	→販売店へお問い合わせください	
制動装置関連	ブレーキおよび駐車ブレーキの効きが悪いまたは片効きする	調整不良	→調整する（販売店へお問い合わせください）	
		ブレーキドラム内に水が浸入	→何回かブレーキをかけて中の水を乾かす	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
車体関連	車体の異常振動	タイヤ空気圧の調整不良	→調整する	51ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
電装品	ヘッドランプまたはリアランプの点灯不良	バルブ切れ	→交換する	68ページ
		ヒューズ切れ	→交換する	67ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
刈取装置関連	刈刃が回転しない	ベルト切れ	→交換する	
	刈刃が停止しない	刈刃ブレーキの消耗	→交換する	
	ベルトが滑る	刈刃Ｖベルトの緩み	→調整する	61ページ
		刈刃Ｖベルトの消耗	→交換する（販売店へお問い合わせください）	61ページ
		刈刃カバー内に草がたまっている	→清掃する	70ページ
	刈刃を回転させると異常振動が発生する	刈刃の欠損または脱落	→刈刃を交換する	58ページ
		異物を巻き込んでいる	→異物を取り除く	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	刈った草がうまく放出されない	草が湿っている	→草が乾燥してから作業する	
		草が長い	→刈高さを高くして2度刈りをする	
		刈高さが低い	→刈高さを高くする	
		エンジン回転数が低い	→最高回転数にする	
		作業速度が速い	→作業速度を遅くする	

6 不具合発生時の処置

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
刈取装置関連	刈り残しがある	草が長い	→刈高さを高くして2度刈りをする	
		エンジン回転数が低い	→最高回転数にする	
		作業速度が速い	→作業速度を遅くする	
		刈刃の消耗、破損	→交換する	
		刈刃カバー内に草がたまっている	→清掃する	70ページ
	土削りがある	刈高さが低い	→刈高さを高くする	
		旋回速度が速い	→旋回速度を遅くする	
		地形に起伏がある	→刈高さを高くする	
		刈刃および刈刃ステーの曲がり	→交換する	
	刈取作業負荷が大きい	エンジン回転数が低い	→最高回転数にする	
		作業速度が速い	→作業速度を遅くする	
		刈刃軸に草が巻き付いている	→清掃する	

トラックへの積み降ろし要領

⚠ 警　告

・トラックは平坦な場所に停め、必ず輪止めをしてください。

・作業中は車両およびアユミ板の周辺には人を近づけないでください。

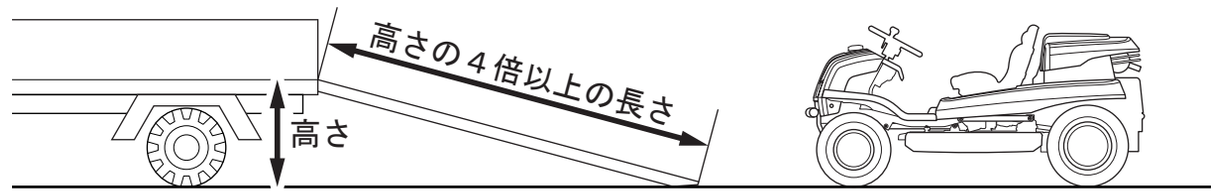
・アユミ板は、十分な強度（機械質量と運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（タイヤ幅の2倍以上）、長さ（トラックの荷台床面高さの4倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用してください。

・アユミ板のフックは荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけてください。

・前進でゆっくりと積み込んでください。

・アユミ板の上で旋回を行わないでください。転落のおそれがあります。

・輸送中に車両が動かないように荷台に確実に固定してください。



1. トラックを平坦な場所に停め、輪止めをします。
2. アユミ板のフックを荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけます。
3. 副変速レバーを「低速」にし、前進でゆっくりと積み込みます。
   その際、刈高さ調節レバーを「移動」にし、アユミ板や荷台にぶつけないように注意してください。
4. **「駐車のしかた」**（☞28ページ）の手順に従い、車両を駐車し、ロープ、ワイヤ等で車両を荷台に確実に固定します。

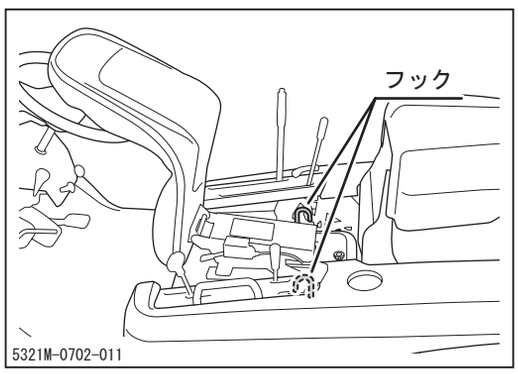
クレーン等による吊り上げ要領

⚠ 警 告

・クレーンの操作および玉掛けには資格が必要です。資格のない人は作業を行わないでください。

・吊り上げに使用するワイヤーロープ（またはチェーン等）は、車両の重量に対して十分強度のあるものを使用してください。

・車両を吊り上げるときは、重心位置およびバランスに注意してください。



1. シートを持ち上げます。
2. フックにワイヤーロープを掛け、車両を吊り上げます。

shindaiwa

保 証 書

（Type-A）

このたびは新ダイワ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。お買い上げいただいた製品につきましては、つぎの通り保証いたします。

1． 保証期間

無償保証修理を受けられる期間はお買い上げ日から１年間といたします。但し、専門業者またはレンタル業など業としてご使用の方はお買い上げの日から６カ月といたします。

2． 保証内容

保証期間に通常の使用状態で本機を構成する部品に材料または製造上の不具合が発生し、弊社がこの欠陥を認めた場合にかぎり、修理を無償でいたします。

3． 保証の適用除外

つぎに示すような場合は保証期間中であっても有償修理となります。

（１）取扱説明書に示す正しい取扱い操作や日常・定期点検、保管方法を行なわなかったために生じた故障
（２）弊社が示す仕様の限度をこえて使用したために生じた故障
（３）弊社が認めていない改造・変更が原因となって生じた故障
（４）弊社のサービス指定工場および弊社が認めたところ以外で修理し、それが原因で生じた故障
（５）弊社の純正部品以外の部品を使用したために生じた故障
（６）時の経過による変化（塗装面・メッキ面の自然退色、発錆など）
（７）一般的に品質、機能および安全上に全く影響がないと認められる音、振動、オイルのにじみ、外観上の軽微なキズなど
（８）自然災害または事故、過失、不注意による本機の損傷
（９）一般消耗品等で使用上における自然摩耗と認められるもの
（10）製品が日本国外で使用された場合

4． 注意事項

（１）本保証書の提示なき場合または記載内容の不備あるいは改訂のある場合は保証しかねる場合があります。
（２）本機の故障に起因するまたは関連するあらゆる損失および費用は保証の範囲から除外させていただきます。
（３）保証書の再発行はいたしませんので、大切に保管してください。

機種(型式名)：		製造番号：
お買い上げ日：	年　　月　　日	
お客様	お名前：　　印	
	おところ：〒	
	TEL：	ご職業：
販売店	住所：	
	店名： TEL：　　印	

新ダイワ工業株式会社
広島市安佐南区大塚西６丁目２－11

新ダイワ工業株式会社

本　社	〒 731-3167	広島市安佐南区大塚西6丁目2-11	TEL	082-849-2001
札幌営業所	〒 065-0033	札幌市東区北三十三条東17丁目4-17	TEL	011-783-7551
仙台営業所	〒 984-0042	宮城県仙台市若林区大和町1丁目22-45	TEL	022-239-1688
郡山営業所	〒 963-0107	福島県郡山市安積4丁目48-1	TEL	024-945-8678
盛岡営業所	〒 020-0122	岩手県盛岡市みたけ4丁目3-5	TEL	019-641-3416
東京営業所	〒 134-0083	東京都江戸川区中葛西6丁目17-8	TEL	03-3687-5771
千葉営業所	〒 264-0025	千葉市若葉区都賀3丁目19-1	TEL	043-214-0260
多摩営業所	〒 192-0043	東京都八王子市暁町2丁目6-3	TEL	0426-20-5590
横浜営業所	〒 222-0025	神奈川県横浜市港北区篠原西町34-33	TEL	045-431-7786
静岡営業所	〒 422-8046	静岡市駿河区中島2834-1	TEL	054-282-7012
さいたま営業所	〒 331-0811	埼玉県さいたま市北区吉野町1丁目19-4	TEL	048-666-2521
宇都宮営業所	〒 321-0912	栃木県宇都宮市石井町3149-28	TEL	028-656-8737
土浦営業所	〒 315-0052	茨城県かすみがうら市下稲吉1628-4	TEL	0299-59-1005
前橋営業所	〒 371-0037	群馬県前橋市上小出町2丁目46-3	TEL	027-234-5956
長野営業所	〒 381-0043	長野市吉田5丁目24-16	TEL	026-244-3970
新潟営業所	〒 950-0892	新潟市寺山3丁目32-12	TEL	025-275-5616
名古屋営業所	〒 454-0826	愛知県名古屋市中川区小本本町1-75	TEL	052-362-2281
浜松営業所	〒 430-0852	静岡県浜松市中区領家3丁目11-1	TEL	053-465-1140
津　営　業　所	〒 514-0823	三重県津市大字半田池町590-5	TEL	059-227-2716
岐阜営業所	〒 500-8367	岐阜市宇佐南4丁目2-4	TEL	058-271-4015
金沢営業所	〒 920-0016	石川県金沢市諸江町中丁344	TEL	076-237-1230
大阪営業所	〒 556-0022	大阪市浪速区桜川4丁目11-20	TEL	06-6561-8484
和歌山営業所	〒 640-8482	和歌山市六十谷226-6 黒田コーポ	TEL	073-462-7277
京都営業所	〒 601-8304	京都市南区吉祥院前河原町1	TEL	075-321-0141
姫路営業所	〒 670-0974	兵庫県姫路市飯田2-88	TEL	0792-33-6838
広島営業所	〒 731-3167	広島市安佐南区大塚西6丁目2-11	TEL	082-849-2400
防府営業所	〒 747-0031	山口県防府市迫戸町5丁目25	TEL	0835-27-0575
岡山営業所	〒 700-0965	岡山市西長瀬261-104	TEL	086-241-3013
高松営業所	〒 761-0101	香川県高松市春日町片田1638-7	TEL	087-843-1201
松山営業所	〒 790-0064	愛媛県松山市愛光町9-14	TEL	089-922-8886
福岡営業所	〒 812-0006	福岡市博多区上牟田3丁目5-22	TEL	092-411-9801
小倉営業所	〒 803-0826	福岡県北九州市小倉北区高峰町10-8	TEL	093-561-3422
諫早営業所	〒 854-0066	長崎県諫早市久山町1785-5	TEL	0957-49-8857
大分営業所	〒 870-0155	大分市高城南町7-13	TEL	097-552-1745
熊本営業所	〒 861-8045	熊本市小山3丁目7-26	TEL	096-388-0096
鹿児島営業所	〒 890-0073	鹿児島市宇宿2丁目23-18	TEL	099-257-6801
宮崎営業所	〒 880-2112	宮崎市小松2399-6	TEL	0985-62-3612

080416